



NO ENGINEERING, NO ARCHITECTURE.

創立 100 周年に向けて

岡田 章

昨年、建築学科は創立 90 周年を迎え、多くの先輩方とお話をする機会に恵まれた。戦後の混乱期から高度経済成長期にかけて、建築学科の礎を築かれた先輩方のお話は、当学科に対する強い愛情に満ちており、大いに触発された。建築学科の教育に対する共通する願いを何度も伝えられた。それは「流行に流されず、率直で堅実な学生を育ててほしい」ということである。これは「科学としての建築」を目標として掲げた本学科創設者、佐野利器先生の思想にも通じている。「虚より実」を重んじ、今の「構造の日大」、「エンジニアリングの日大」を築いてきた原点である。われわれにとっては重い伝統でもある。

ここで、いささか唐突ではあるが、創立 100 周年に向けた展望を示したい。少し先走りとの声も聞こえそうだが、こういう節目であるからこそ、考えるいい機会でもある。わずか 10 年後のことではあるが、簡単なことではない。10 年前を振り返って、現在の政治・経済、社会的価値観等の急変を予言した知恵者がどれだけいたろうか。この 10 年、大学も大きな変革を余儀なくされている。

このような状況下で、ぼんやりとした展望を描きながら手探りではあるが、新しい試みを行っている。基本コンセプトは 3 つ。1 つ目は「'変えなければならないこと' と '変えてはいけないうこと' を見極めること」、2 つ目は「研究・教育に常に社会性を意識すること」、そして 3 つ目は「リアルな体験に裏打ちされた研究・教育を目指すこと」である。具体的には次のようになる。

- ・エンジニアリング教育の質の保持とさらなる向上
- ・豊かな実務経験と教育に対する情熱を併せ持つ専任教員と多くの非常勤講師によるデザイン教育の充実
- ・研究・教育・社会貢献のバランスの取れた教育プログラムの実践
- ・デザインの実体化や「モノヅクリスピリッツ」の養成を意識した実体験の提供
- ・建築学科に集うことの喜びと誇りの共有

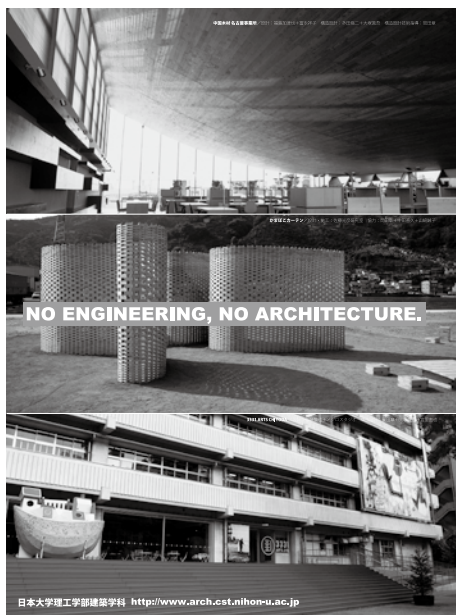
このような手探りの状況下、手応えを感じるニュースが昨年飛び込んできた。大学院生が獲得した愛媛県八幡浜のコンペである。このコンペは、アイデアの提供に留まる通常の学生コンペではなく、設計者自らが建設す

ることが条件となっている。しかも数年間にわたって安全に存続させる、という要求もある。町民と一体となって建設された、かまぼこ板 2 万 4000 枚が形成する曲面は美しく、次世代の技術さえ予見させる。当学科のデザインと構造・材料・施工・ランドスケープ等のエンジニアリングとの総合力を示す好例といえよう。この他にも教員や OB の活躍は、枚挙に暇が無いほどである。

「築かれた伝統を基盤にして、新しい伝統を築く」。ありふれた言葉だが、この目標に向かって、ゆるやかに粘り強く進んでいく。これが私見ではあるが、当学科の展望である。答はまだ見えないが、手応えは感じている。

人によってさまざまな考えがあろう。建築学科に集う、あるいは思いを寄せる方々の議論のネタになることを望んでいる。最後に一言。タイトルの『NO ENGINEERING, NO ARCHITECTURE.』は、ある若手教員の造語である。端的に当学科のコンセプトを表している。奥深く、鮮烈である。

(おかだあきら・建築学科教室主任・教授)



グラフィック
：佐藤慎也

平成23年度 建築学科 履修要項

履修に関する一般事項

履修要覧

建築学科を卒業するために必要な条件は、入学時に渡された「学部要覧」に収められた履修要覧、および「建

平成23年度 クラス担任 学部

学年		クラス担任	研究室(駿河台5号館)
1年	専門	川島 和彦 (企画経営)	594B室
	◇	山崎 誠子 (設計・計画)	587A室
	◇	宮里 直也 (環境・構造)	569A室
2年	1組	重枝 豊 (設計・計画)	575B室
	◇	蜂巢 浩生 (環境・構造)	578A室
	2組	古橋 剛 (環境・構造)	564A室
	◇	山中新太郎 (設計・計画)	588B室
3年	1組	佐藤 慎也 (設計・計画)	586B室
	◇	富田 隆太 (環境・構造)	579A室
	2組	今村 雅樹 (設計・計画)	589B室
	◇	山田 雅一 (環境・構造)	565B室
	再修生	中田 善久 (環境・構造)	566A室
4年	1組	佐藤 光彦 (設計・計画)	588A室
	◇	渡辺 富雄 (設計・計画)	585B室
	2組	橋本 修 (環境・構造)	578B室
	◇	田嶋 和樹 (環境・構造)	567B室
	再修生	秦 一平 (環境・構造)	564B室

大学院理工学研究科建築学専攻博士前期課程

1年	安達 俊夫 (環境・構造)	565A室
2年	大川 三雄 (設計・計画)	576A室

大学院理工学研究科不動産科学専攻博士前期課程

1年・2年	宇於崎勝也	595B室
-------	-------	-------

平成23年度 委員会他担当

就職指導	池田 耕一	577B室
公務員対策	川島 和彦	594B室
学芸員	重枝 豊	575A室
学生相談室相談員	川島 和彦	594B室
	山崎 誠子	587A室
建築教室事務室	栗原のり子	542室
	矢萩有美子	
設計講師室	西脇 梓	553室
	山田 明里	

「建築学科履修の手引き」に詳しく記載されている。これは大学と諸君との間の、教育に関する“契約”が述べられている重要文書であるため、卒業まで大事に取り扱い、年度初めには必ず読み直すべきものである。これら履修に関する諸規定は、諸君が卒業するまで変更することなく適用される。なお、本年度の2年次編入生には平成22年度の、また3年次編入生には平成21年度の履修規定が適用される。

これらの履修規定はカリキュラムの変更にともなって改訂されることがある。1～3年次生は平成21年度改正のカリキュラム（以下、「H21カリキュラム」）、4年次生は平成20年度改正のカリキュラム（以下、「H20カリキュラム」）、5～8年次生は平成15年度改正のカリキュラム（以下、「H15カリキュラム」）による。5年次以上の学生が1～4年次設置科目を受講する場合は、ガイダンス時に配布される新旧科目振替表（時間割の最終ページ参照）によってよく確認の上、受講計画を立てることが必要である。なお、入学時の履修規定に掲載されていない新規科目は受講できないことに注意してほしい。

相互履修および単位互換制度

日本大学相互履修制度は、所定の手続きを経て各学部の指定する講義を相互に履修できるようにしたもので、合格すれば単位が修得できる。受講可能科目、申請手続きなどはガイダンス時にクラス担任から説明がある。建築学科では、このようにして修得した単位を「卒業に必要な単位」には算入しないが、高学年で時間に余裕があれば、芸術、生産工、経済学部などの講義を受講して知識を広めるとよい。単位互換制度は、理工学部と短期大学部間で、それぞれ指定された講義を相互に履修できるようにしたものである。上の相互履修制度を短期大学部にまで広げたものと考えればよい。詳細情報は教務課またはクラス担任から伝えられる。

他学科設置科目の受講

2年次生は40単位以上、3年次生は85単位以上、4年次生は125単位以上を修得し、受講計画に余裕があって、クラス担任から必要と認められた場合、受講科目担当教員の許可を得て、建築学科以外の学科に設置された基礎

教育および専門教育科目を受講することができる。詳しくは「学部要覧」を参照されたい。

受講手続き

毎年新学期の受講計画は、指定された期限までに受講手続きを行い、教務課に登録されたことを確認しなければならない。登録していない科目の試験を受けて合格しても単位は認められない。届出・確認の手続きは必ず自分の責任において行うこと。

教職課程・学芸員課程の受講

中学校および高等学校の教員免許または学芸員資格を取得希望の者は、それぞれの課程科目を受講することができる。履修条件その他の詳細は、「学部要覧」を参照されたい。

GPA 制度 (Grade Point Average)

日本大学として統一された成績評価システム (GPA 制度) は、授業内容の向上や成績評価の統一化などを目的としたもので、不合格科目や履修登録後の未履修科目の成績も考慮されることが特徴である。詳細は、1 年次のガイダンス時にクラス担任から説明がある。

サブメジャー制度

サブメジャー (副専攻) 制度が平成 20 年度入学生より適用され、他学科に設置された科目群の中から 16 単位を修得することで、建築学科の学位とは別に、特定分野の学習成果を理工学部が認証する。修了者には修了証書が授与される。詳しくは「学部要覧」および時間割を参照されたい。

早期卒業

本学部にて 3 年以上在学し、卒業の条件として定める単位を優秀な成績で修得したと認められる者で、日本大学大学院理工学研究科に進学する者を対象とする制度で、平成 20 年度入学生より適用される。早期卒業者でも通常の卒業者と同様に建築学科の学位を取得でき、一級建築士の受験資格のための学歴要件も満足することができるが、認定されるためにはさまざまな条件が設定されている。詳細は「学部要覧」を参照するとともにクラス担任に相談されたい。

1 年次生

履修要項と学科の概要について

1 年次生は、ガイダンスの時に配布される「平成 23 年度 (2011) 学部要覧」に示された履修要覧に従って卒業まで学修する。この「学部要覧」には、履修規定、履修方法のほかに、各年次別の授業科目、単位、履修順序、受講手続きの方法、受講計画上の注意、教職課程の履修方法および学生生活に関する情報が掲載されているので、

卒業まで大事に保管し、よく検討して学修計画を立てること。また各授業科目の内容は、「学部要覧」の科目概要および WEB 上のシラバスで確認すること。また、1 年次では最大 49 単位までの履修登録が認められる。

建築学科の概要や教育目標、学修方法、コース (環境・構造コース、設計・計画コース、企画経営コース) の選択、その他については、ガイダンス当日に教室主任およびクラス担任の先生から説明がある。

H21 カリキュラムについて

平成 21 年度から始まったカリキュラムは、将来必要となる国際資格 (JABEE, UNESCO-UIA) にも対応した科目構成となっており、専門科目の受講に必要な基礎教養や技術を修得することを目的としている。「学部要覧」の授業科目配置表を見るとわかるように、1 年次からの 2 年間で建築学の基礎となる幅広い領域の専門教育が受けられること、3 年次からは、「環境・構造コース」、「設計・計画コース」、「企画経営コース」を選択し、より高度な専門分野の知識と技術が習得できることが本カリキュラムの特徴である。なお、いずれのコースを選択しても一級建築士レベルの知識が得られるように工夫されている。各コースの履修の詳細については別途配布する「**建築学科履修の手引き**」を参照されたい。コースの選択・登録は 2 年次後期終了時に行われる。各コースには定員が設けられており、各人の希望、取得科目・単位、適性などを考慮しながら、建築学科教室がコースを決定する。

教養教育科目・外国語科目の履修について

時間割表を見るとわかるように、大学生にふさわしい人格形成のため、さらにこれから専門教育を受ける上で必要と思われる教養教育科目が 1 年次に設置されている。

外国語科目は、英語を中心にして、第 2 外国語にドイツ語、フランス語、その他を選択するとよい。

基礎教育科目の履修について

基礎教育科目は、工学全般の基礎となる「(選択) 共通基礎教育科目」と、専門教育を受ける上で基礎となる知識や学力を蓄えることを目標とした「(必修/選択) 専門基礎教育科目」が設置されている。専門基礎教育科目には、「デザイン基礎」、「建築基礎実験」の必修 2 科目および「建築基礎数学」、「建築基礎物理Ⅰ、Ⅱ」、「コンピュータリテラシ」の選択 4 科目が設置されている。これらはすべて建築学の基礎であるから、1 年次ですべて受講するとよい。なお、専門基礎教育科目は駿河台校舎には設置されないこと、「デザイン基礎」の単位を修得しないと「建築設計Ⅰ」を受講できないことに留意すべきである。

専門教育科目の履修について

専門教育科目には、必修 5 科目と選択 3 科目の計 8 科目が設置されている。この内、「環境の計画と技術」、「社会と建築・都市インセンティブ」、「建築デザインと歴史」、

「構造の計画と技術」の4科目は、広汎な建築分野への導入と学習意識の向上を図るために設けた科目である。これらは2年次以降の専門科目を履修するための基礎知識を修得するものであり、すべての受講をすすめる。また、「建築スタディ・スキルズ（必修）」は、専門科目を履修するための基礎教養や技術を修得するものである。なお、1年次の専門教育科目は駿河台校舎には原則として設置されないこと、「建築設計Ⅰ」の単位を修得しないと「建築設計Ⅱ」を受講できないことに留意すべきである。

2年次生

専門教育科目の履修について

履修規定は入学時に配布した「平成22年度（2010）学部要覧」による。2年次から本格的な専門教育課程に入り、教育効果を高めるために2クラスに分けて各専門科目を受講するように時間割が編成されている。クラスは学生番号が奇数の学生が1組、偶数の学生が2組である。それぞれ該当するクラスの時間割に従って、受講計画を立ててもらいたい。なお、1年次設置の専門教育科目を受講する必要のある者は、原則として船橋校舎の授業を受けなければならない。

2年次設置の専門教育科目は、いずれも建築を学んでいく上の基礎的な科目であり、ほぼ二級建築士レベルの内容を扱っていると考えてよい。このため、必修科目（12科目）はもちろんのこと、共通に位置づけられている7科目についても、「必修」と同様に考えて受講してもらいたい。また、環境・設備系群、構造・生産系群、設計・計画系群、企画経営系群に分類されている科目の中には、一級建築士受験の必須科目である「構造力学Ⅲ」や、専門的な内容を扱う「建築企画経営」なども含まれている。これらは次年度選択することになるコースの入門的な内容である。この内、「建築企画経営」は企画経営コースの選択必修科目（卒業のためには◆印6科目中5科目以上を修得する必要がある）であり、本コースを目指す場合には必ず受講することをすすめる。

H21カリキュラムの系統図や分類については、1年次のガイダンスで配布した「2010年 建築学科履修の手引き」を再読して、各科目の位置づけと相互の関連をよく検討した上で選択科目を決めるとよい。なお、3年次終了までに卒業に必要な単位の約75%にあたる98単位以上を修得していないと、4年間で卒業できない。受講計画全般については、クラス担任に相談するとよい。

基礎教育科目の受講について

2年次に設置されている基礎教育科目は、共通基礎教育科目では「線形代数学Ⅰ、Ⅱ」、「科学技術史」、専門基

礎教育科目では「材料化学Ⅰ」、「建築情報処理Ⅰ」の5科目が設置されている。受講計画は、環境工学、構造、都市計画の基礎として「線形代数学Ⅰ、Ⅱ」を、構造・材料の基礎として「材料化学Ⅰ」を、環境工学、建築計画の基礎として「建築情報処理Ⅰ」の受講をすすめる。

環境・構造コース、設計・計画コース、企画経営コースの選択と登録について

2年次の終了時に、「環境・構造コース」、「設計・計画コース」、「企画経営コース」のいずれかを選択・登録し、3年次以後は、それぞれのコースのカリキュラムに従って、各科目の受講計画を立てることになる。ここで注意すべきことは、コース毎に卒業条件が定められていることである。また、3年次にはコース毎に独自の専門教育科目が設置されている。これらの科目はコース決定後に初めて受講できること、また他コースの独自科目の受講は他学科受講扱いになることにも注意してほしい。いいかえれば、2年次終了時にいずれかのコースに着手できなければ、4年間での卒業が不可能になることを肝に銘じてほしい。

コースに着手できる条件として、建築学科教室は「2年終了時の取得総単位数が52単位」という条件を設定している。これは卒業研究・設計への着手条件（3年次終了時に98単位）から、1年間で取得できる単位数の上限（46単位）を差し引いた数値で、大部分の学生が無理なく修得できる単位数であろう。

コースの決定は、学生の希望を十分に尊重することを原則とするが、希望コースの偏りが生じた場合には、教育の質を確保するために振り分けを実施せざるを得ない場合もある。このコース振り分けはクラス担任を中心に、建築学科教室が実施するが、学生個々の修得科目の成績（総得点、平均点）や内容などに基き適性を勘案しながら決定する方針である。これらの具体的な振り分け方法については、後日クラス担任から説明がある。なお各コースの最大受け入れ可能な学生数の目安は、教室・製図室の収容人数やコース設定時の定員から、環境・構造コースと設計・計画コースはそれぞれ約150名、企画経営コースは約50名と定めている。

コースの決定は次のようなスケジュールで実施する予定である。まず前期終了時または後期開始時に、希望コースのアンケートを行う。これは希望コースの偏りの推定のために実施するため、必ずアンケートに応じてほしい。続いて後期終了時に希望コースの登録を実施する。クラス担任は、登録された希望コースに基づいて春季休暇中にコースを決定し、3年次開始時のガイダンス前に発表を行う。以上の具体的な日程は掲示や建築学科のホームページを通じてクラス担任から伝えられるので、確認を怠らないように心がけてほしい。

「建築生産実験」，「建築設計Ⅱ，Ⅲ」の受講について

実験も建築設計も十数名の小グループに分けて行われるので、それぞれのガイダンスには必ず出席すること。駿河台校舎の実験室は手狭なので、各班ごとに時間をずらして各種実験が行われることが多い。実験の予定・準備する資料やその他の注意事項は駿河台校舎7号館3階と5号館6階566A室（中田研究室）掲示板に掲示されるので、確認するように心がけてほしい。また、建築設計の注意事項は5階EVホール掲示板に掲示される。

3年次生

各コースの受講に関する原則について

3年次では、自分が所属する環境・構造コース、設計・計画コース、企画経営コースのいずれかのコースのカリキュラムに沿って、受講計画を立てる必要がある。各コースで受講できる科目は、時間割を見ると判断しやすい。3年次からの時間割は2年次までのようにクラス毎に分かれてはならず、コース毎に分かれて記載されている。各コースの時間割に掲載されている科目は、入学時に配布された「平成21年度（2009）学部要覧」あるいは「2009年度 建築学科履修の手引き」の授業科目配置表に対応している。各自が所属するコースの科目を受講する場合には何ら制限はないが、他コースに設置した科目を受講す

る場合には制限がある。後述する「他コース設置科目の受講について」を参照してほしい。

受講計画の際には履修登録単位数の上限（46単位）について留意すべきであるが、2年次までの設置科目、特に1，2年次必修科目を未修得の場合、優先的に受講する必要がある。この場合、卒業研究・設計着手条件を満足することも重要である。受講計画が困難な場合にはクラス担任に相談するとよい。

基礎教育科目の受講について

3年次に設置されている基礎教育科目は、共通基礎教育科目では「数理統計学Ⅰ，Ⅱ」が、また専門基礎教育科目では、「材料化学Ⅱ」，「建築情報処理Ⅱ」，「振動工学」，「芸術史」が設置されている。受講計画上は、環境・構造・建築計画・都市計画の基礎として「数理統計学Ⅰ，Ⅱ」を、構造・材料の基礎として「材料化学Ⅱ」を、構造の基礎として「建築情報処理Ⅱ」，「振動工学」を、建築計画・設計の基礎として「芸術史」の受講をすすめる。

専門教育科目「共通科目」の受講について

3年次以上の専門教育科目は、「共通科目」と「各コース独自科目」に大別できる。

「共通科目」は必修科目とコース共通系群の選択科目に分かれているが、建築を学ぶ上で基礎となる科目であり、一級建築士受験の際に不可欠な科目も含まれている。共通科目の「共通」という意味は、「コースに関わらず同じ内容（シラバス）で実施する科目」ということであるが、

表1 3年次専門教育科目「共通科目」の構成

科目名	単位	環境・構造コース	設計・計画コース	企画経営コース
※都市計画Ⅰ	2	●	●	●
建築環境実験	1	●	○	○
建築構造実験	1	●	○	×
建築設計Ⅳ	2	○	●	●
企画経営実習	1	×	×	●
※建築施工法	2	●	●	●
※建築積算・生産管理	2	○	○	○
※地盤基礎工学Ⅰ	2	○	○	○
※銅構造	2	●	●	●
※鉄筋コンクリート構造Ⅰ	2	●	●	●
※建築設備Ⅱ	2	○	○	○
循環環境管理	2	○	○	△
建築人間工学	2	○	○	○
ゼミナール	1	○	○	○

● 必修 ○ 選択 △ 他学科受講により受講可能 × 受講不可

※ 一級建築士受験のために重要

表2 3年次専門教育科目「各コース独自科目」一覧

	環境・構造コース	設計・計画コース	企画経営コース
科目名と単位	建築設備Ⅲ	2 × 建築設計Ⅴ	2 都市デザイン*2
	環境工学Ⅲ	2 × 設計演習Ⅱ	2 経済学特論Ⅰ
	構造力学Ⅳ	2 × 設計演習Ⅲ	2 経済学特論Ⅱ
	構造力学演習Ⅳ	1 設計計画Ⅰ	2 会計学
	地盤基礎工学Ⅱ	2 設計計画Ⅱ	2 民法Ⅰ
	対地震構造	2 ランドスケープデザイン	2 民法Ⅱ
	鉄筋コンクリート構造Ⅱ	2 インテリアデザイン	2 行政法規
	構造設計Ⅰ及び演習	3 建築史Ⅲ	2 不動産経営
		2 建築史Ⅳ	2 不動産維持管理
		2 都市デザイン*2	2 鑑定評価理論Ⅰ
		× 都市調査及び演習	2 環境システム解析
		× デザインワークショップⅠ*1	2 地域開発計画
		× デザインワークショップⅡ*1	2 住環境計画
			× 住環境デザイン
			2 不動産企画
			2

× 他コースは受講不可能

*1 夏季集中講義として、「デザインワークショップⅠ」と「同Ⅱ」が交互に隔年で開講される。平成23年度は「同Ⅰ」が開かれる

*2 設計・計画コースと企画経営コースの共通科目

各コースによって必修・選択の区別などの取り扱いが異なっている科目もあるため、注意が必要である。表1を参考にしてほしい。

表1の中で△印は他学科受講の手続きを行った後に受講可能な科目を、また×印は他学科受講が認められない科目である。詳しくは後述の「他コース設置科目の受講について」を参照してほしい。

また、表1の※印のついた科目は、一級建築士受験のために極めて重要と考えられる科目である。所属コースに関わらず受講することを強くすすめる。

「ゼミナール」は、卒業研究・設計の着手前に、各研究室で行われている研究の状況を実際に体験してもらうことを目的として設置された選択科目である。事務処理上、いずれかの研究室に所属することになるが、他研究室が開講する講座を自由に受講することが可能である。所属研究室および受講研究室は、所属コースに関係なく希望することができる。「ゼミナール」の実施要項やスケジュールは、前期試験の終了時にクラス担任から具体的な説明がある。

専門教育科目「各コース独自科目」の受講について

各コースで設定された「独自科目」は、共通科目より専門性の高い科目で、各コース独自の教育目標に対応して設置されたものである。いずれも将来のスペシャリストを目指す上で基礎的で重要な科目である。時間割上、これらの科目は当該コースにしか設置されていないが、他コースに設置された科目を受講する場合には、他学科受講扱いとして承認が必要なこと、卒業条件には6単位まで算入可能であるが、卒業研究・設計着手条件には算入されないことに注意してほしい（後述の「他コース設置科目の受講について」を参照のこと）。

表2に3年次に設置された「各コース独自科目」の一覧を示す。×印の科目は、他コースの学生は受講不可能であることに注意してほしい。

他コース設置科目の受講について

時間割において自分が所属するコースに設置されている科目のみを受講することを原則とする。すなわち「共通科目」のように、所属コースと他コースで同一名の科目がある場合でも、他コースの科目を受講することは原則的に認められない。しかし、コース独自科目のように、所属しているコースに受講希望の科目がない場合は、以下の条件をすべて満足する場合に限り受講が認められる。

- ・2年次終了までの修得単位数が85単位以上の場合（3年次編入生は緩和措置があるので、担任と相談すること）。
- ・3年次終了時に卒業研究・設計着手条件を満足する見込みがあり、かつ受講計画に余裕がある場合。
- ・クラス担任と科目担当教員が許可した場合（許可印が必要）。

・当該科目が、実験・実習・設計などの科目でない場合（具体的には表1および表2中の×印のついた科目は、受講ができない）。

これらの条件は、他学科設置科目の受講の場合と同じものである。すなわち、他コースの独自科目受講は他学科の設置科目受講扱いになることに注意してほしい。

また、こうして修得した単位は、6単位までは「卒業に必要な単位」に算入することは可能であるが、卒業研究・設計着手条件には算入できないことに留意すべきである。

卒業研究・設計着手条件について

4年次に卒業研究・設計に着手するためには、卒業条件の単位数130単位の約75%に当たる98単位以上を3年次中に修得しなければならない。この単位数は、単に3年次までに修得した単位の合計ではなく、卒業条件を考慮した以下の条件を満足する必要があるため、十分に注意してほしい。この卒業研究・設計の着手条件は厳守され、例外はない。

- ・教養教育科目、保健体育科目、基礎教育科目はそれぞれ、10単位、2単位、22単位まで算入する（それぞれの単位数を超えて修得している場合でも、当該単位数として扱われる）。
- ・外国語科目は、必修の英語4科目4単位と、その他を含めて10単位まで算入する。
- ・1, 2年次設置の必修科目をすべて修得していること。
- ・専門教育科目の修得単位数の合計が、必修科目を含めて60単位以上修得していること。
- ・修業年数が3年以上を経過していること。
- ・他学科の設置科目（他コースの独自科目も含む）は、算入しない。

3年次編入生の受講について

3年次編入生は、1, 2年次の設置科目から優先的に受講しなければならない。なお、編入生は認定単位の制約から3年次の受講計画が一番困難である。このため編入生には、他コース設置科目の受講に関して、特別な条件が設定されることがあるので、受講計画立案の段階でクラス担任によく相談してほしい。

就職について

本来ならば、4年次になって卒業研究・設計指導の先生が決まり、しばらく研究室活動を行ってから、大学院進学や就職先など卒業後の進路について指導の先生と相談するのが理想であるが、実際には就職活動は3年次の10月頃から始めざるを得ないようになってしまっている。そこで、積極的に建築学科教室の就職情報（学内のみ閲覧可能なホームページによる情報あり）を見たり、企業のホームページ、D.M.を検討するなど、情報収集はできるだけ広い範囲で行い、進路について身近な先生方や先輩、両親などに早めに相談するとよい。

4 年次生

4 年次の新学期で最も大事なことは、諸君のそれまでの修得単位数によって当該年度に卒業する見込みがあるかどうかの判断が下されることである。卒業見込み者＝卒業研究・設計着手者であり、大学生活最後の年度は卒業研究・設計のテーマ設定と指導教員の選択から始まる。

大学生活の締めくくりは、4 年生の卒業研究・設計である。研究室に所属して担当教員と研究・設計テーマを追求し、大学院進学も含めて、広い領域を含んだ「建築」の中から自分の個性や適性にあった指標を定めていく。

卒業研究・設計の着手について

建築学科における卒業研究・設計着手条件は、上述の「3 年次生」の項目に記述している「卒業研究・設計着手条件について」を参照すること。この条件を満たした学生に対しては、理工学部より卒業見込証明書が発行される。

卒業研究・設計着手条件を満足する学生は、「駿建」2011 年 1 月号のテーマを参考にして、自分の希望する研

究室に卒業研究・設計の申し込みをすることができる。原則として、研究室は所属コースに関係なく希望することができるが、着手のための条件を定めている研究室もある。上述の「駿建」や 4 月初めの卒業研究・設計ガイダンスを通じて情報収集につとめてほしい。

申し込みの方法などについては、クラス担任から 4 年次事務ガイダンスの際に詳しい説明がある。

専門教育科目の受講について

環境・構造、設計・計画、企画経営の各コースの 4 年次に設置されている専門教育科目を表 3 と 4 に示す。2, 3 年次の主な専門教育科目を修得した上で、将来の進路なども考慮して、所属しているコースの設置科目から選択して受講するとよい。他コースに設置されている科目を受講することも可能であるが、以下の条件をすべて満足する必要がある。

- ・3 年次終了時までの修得単位数が 125 単位以上の場合。
- ・4 年次終了時に卒業できる見込みがあり、かつ受講計画に余裕がある場合。
- ・クラス担任と科目担当教員が許可した場合（許可印が必要）。
- ・当該科目が、実験・実習・設計などの科目でない場合（具体的には表 4 中の×印の付いた科目は受講できない）。

なお、他コース設置科目を修得した場合、6 単位までは「卒業に必要な単位」として算定することができる。これらの専門教育科目は各コースの特徴を反映しているため、コース毎に大きく異なっており、注意が必要である。履修計画を立てる際には、各自の進路や卒業研究・設計テーマとも関連づけて、卒業研究・設計の指導教員やクラス担任と相談の上、選択するのが望ましい。

専門教育科目に関する卒業条件

建築学科の卒業に必要な単位は 130 単位以上と設定されているが、この内、教養教育科目が 10 単位以上、外国語科目が必修の英語 4 単位と選択の英語 2 単位を含めて 10 単位以上、保健体育科目が 2 単位以上、共通基礎教育科目が 14 単位以上、専門基礎教育科目が 8 単位以上、その他のいずれの科目区分にもよらない科目（他学科・他コース設置科目も含む）が 6 単位以上、専門教育科目としては 80 単位以上取得する必要がある。

【環境・構造コース】

- ①必修科目 23 科目 45 単位
- ②選択共通科目（24 科目 46 単位）から、1・2 年次の科目（11 科目 21 単位）の内、9 科目以上を含めて 27 単位
- ③環境・設備系群科目（6 科目 10 単位）から 8 単位、または構造・生産系群科目（15 科目 27 単位）から 8 単位の 3 条件が設定されている。各コースは以下の条件をすべて満足して、80 単位以上修得することが条件となって

表 3 4 年次設置共通科目の構成

科目名	単位	環境・構造コース	設計・計画コース	企画経営コース
卒業研究・設計	6	●	●	●
建築学総合演習	1	●	●	●
建築学総合講座	2	○	○	○
防災計画	2	○	○	○
建築経済	2	○	○	△
建築法規Ⅱ	2	○	○	△
都市計画Ⅱ	2	○	○	○

● 必修 ○ 選択 △ 他学科受講により受講可能

表 4 各コースの独自科目一覧（4 年次）

	環境・構造コース	設計・計画コース	企画経営コース
科目名と単位	環境計画 2	特別講義*1 (デザイン論) 2	不動産特別講義 2
	設備計画 2	×建築設計Ⅵ 2	不動産マーケティング 2
	特別講義*1 (構造設計論) 2	設計計画Ⅲ 2	鑑定評価理論Ⅱ 2
	×測量及び実習 2	保存修復論 2	都市防災 2
	構造解析法 2	×デザインワーク ショップⅠ*2 1	×不動産開発プロジェクト 2
	構造設計Ⅱ 2	×デザインワーク ショップⅡ*2 1	建築マネジメント 2

× 他コースは受講不可能

*1 どちらか一方のテーマを選択・受講

*2 夏季集中講義として、「デザインワークショップⅠ」と「同Ⅱ」が交互に隔年で開講される。平成 23 年度は「同Ⅰ」が開かれる

いる。これは卒業研究・設計に着手できた場合、4年次前期で十分に修得できる単位数である。

【設計・計画コース】

①必修科目 22 科目 45 単位

②選択共通科目（25 科目 46 単位）から 1・2 年次の科目（11 科目 21 単位）の内、6 科目以上を含めて 15 単位

③設計・計画系群科目（18 科目 34 単位）から 20 単位の 3 条件が設定されている。この内、③は 2 年次の科目の「設計演習Ⅰ」以外はすべて 3 年次以上のコース独自科目である（表 2、4 を参照）。この中には建築設計、設計演習、デザインワークショップなどの演習科目が比較的多く含まれており、受講計画の際にはこの点を考慮しておく必要がある。

【企画経営コース】

①必修科目 23 科目 46 単位

②選択共通科目（21 科目 39 単位）から 10 単位

③企画経営系群科目（21 科目 41 単位）から 24 単位。ただし、◆印の科目（「建築企画経営」、「経済学特論Ⅰ」、「民法Ⅰ」、「住環境デザイン」、「不動産企画」、「不動産開発プロジェクト」の 6 科目）から 5 科目以上含めて 24 単位

の 3 条件が設定されている。また、4 年次設置の専門科目は、コース独自科目がほとんどである。

卒業達成度評価科目について

理工学部では、ディプロマ・ポリシー（DP）に基づき卒業時の教育の質の保証を明示するものとして、卒業達成度評価科目の設置を掲げている。

建築学科では、卒業後 2 年間の実務経験後に一級建築士に合格できることを教育目標の 1 つに設定し、「建築学総合演習（必修 1 単位）」と、これと連動した講義科目として「建築学総合講座（選択 2 単位）」の 2 科目を、前期に設置している。これらの授業では、専門内容を一級建築士と同じく 5 分野（計画、環境・構造、法規、構造、材料・施工）に分け、それぞれに対してミニマム・リクワイアメント（最低限、修得しておかなければならないレベル）を設定している。必修の「建築学総合演習」では、5 分野それぞれの筆記試験においてすべて合格点に達することが単位取得の条件となる。よって 1 分野でも不合格となれば、次年度に再履修しなければ卒業できないことになるので、気を引き締めて取り組んでほしい。なお履修内容は、コース共通で設置された必修・選択科目で学んだ内容が主となるが、当然その範囲は広いものとなる。学科で独自に作成した問題集をすでに渡しているもので、これを繰り返し学習し、理解を深めてほしい。

大学院進学について

デザイナー、構造デザイナー、（室内）環境設計者、研究職など、将来、専門性の強い分野での活動を目指す諸

君には、大学院博士前期（修士）課程への進学をすすめる。

建築学科の卒業生が進学する理工学研究科の専攻としては、「建築学専攻」および「不動産科学専攻」が挙げられる。理工学研究科は博士前期（修士）課程と博士後期（博士）課程を設置している。建築学および不動産科学専攻の平成 24 年度入学試験の募集定員はそれぞれ 50、10 名の予定である。

ここでは建築学専攻の修士課程進学についてのみ説明する。学部の卒業見込者および卒業生（社会人は除く）が受験できる入学試験は、7 月に実施される「学内推薦入学試験」と「一般第Ⅰ期入学試験」、9 月に実施される「一般第Ⅱ期入学試験」および 3 月実施の「一般第Ⅲ期入学試験」の 4 種類である。

現状では、大学院進学者は学部 4 年次卒業研究・設計の指導教員の下で継続して指導を受けるケースが大部分を占めている。したがって、進学希望者は大学院での学修・勉学・研究・設計などを視野に入れて卒業研究・設計の指導教員の研究・設計活動などに関する情報を収集しておくことをすすめる。

大学院修士課程の学生を指導できる教員（現状 18 名）を次に示す。ここではこれらの教員を「大学院教員」と呼ぶことにする。

●環境・設備系（環境工学特別研究）：2 名

池田耕一、井上勝夫

●材料・構造・防災系（建築材料学特別研究、建築構造学特別研究、防災工学特別研究）：6 名

中田善久（材料）、安達俊夫（構造）、岡田 章（構造）、白井伸明（構造）、三橋博巳（構造）、古橋 剛（防災）

●設計・計画系（建築史特別研究、建築設計特別研究、建築計画特別研究、都市計画特別研究）：10 名

大川三雄（建築史）、重枝 豊（建築史）、本杉省三（設計・計画）、今村雅樹（設計）、佐藤光彦（設計）、横河健（設計）、八藤後 猛（計画）、渡辺富雄（計画）、根上彰生（都市計画）、横内憲久（都市計画）

建築学科では、より広い分野にわたる教育・研究活動の推進、充実した指導体制の確立などを目指して以下のルールを設けている。

①大学院教員 1 人あたりの受入大学院生数は 6 名程度とする。

②学内推薦入学試験の受験資格は、卒業見込者の成績（卒業研究着手時）が概ね上位 25～30%に入る学生で、大学院教員の推薦を受けた者とする。ただし、大学院教員が推薦できる学生数は最大 4 名までとする。

③大学院の推薦入学試験および一般入学試験の受験希望者は、国家公務員採用試験を受験していることが望ましい。

④短大教員を含む専任講師・助教以上の大学院教員以外

の教員は、大学院教員と協同指導することで大学院生を受け入れることができる。ただし、受入大学院生は教員1人あたり2名程度とし、協同指導の大学院教員の6名枠には含めないものとする。

以上が大学院進学に関する情報の概要であるが、詳しくは4年生クラス担任に相談するとよい。

また、不動産科学専攻に関する詳細な情報を知りたい学生は、三橋博巳教授に相談すること。

建築実験について

建築実験は、それぞれ十数名の班単位で行われる。各実験項目についての班分けや実施日程などは、別にプリントとして新学期の総合ガイダンス時にクラス担任から配布される。実験科目と実験項目、担当者一覧を表5に示す。

建築設計について

1～3年次生は、H21カリキュラム、4年次生は、H20カリキュラム、5～8年次生は、H15カリキュラムでの履修になるので留意すること。

・建築設計の受講に関する手続きの詳細は、学期初めに

行う建築設計ガイダンスの際に配布する「2011年度 建築設計課題集」に記載してある。本年度の建築設計科目の担当者、事務担当者についても課題集を参照のこと。

・建築設計関係科目に関する一般的な連絡は、駿河台校舎は5号館5階EVホール掲示板、船橋校舎は14号館3階講師室前に掲示する。

選択するコースによって、建築設計科目の履修条件が異なるので十分留意すること。

「建築設計」はⅠ～Ⅲまでが全コース必修科目で、2年次後期の「設計演習Ⅰ」は選択科目である。3年次前期の「建築設計Ⅳ」は、設計・計画、企画経営コースでは必修科目、環境・構造コースでは選択科目であり、課題内容も異なる。

「建築設計Ⅴ、Ⅵ」、「設計演習Ⅱ、Ⅲ」、「デザインワークショップⅠ、Ⅱ」は、設計・計画コースのみの設置科目であり、選択科目である。将来、主として設計（デザイン）方面に進む学生を対象とした課題によって構成されている。

「デザインワークショップⅠ、Ⅱ」は、3、4年次生を対象として、夏季集中授業として交互に隔年で開講される。

・必修科目である「デザイン基礎」、「建築設計Ⅰ～Ⅲ」は、設置順に段階的に単位を修得しなければならない。

・選択科目である「建築設計Ⅳ～Ⅵ」、「設計演習Ⅰ～Ⅲ」は、設置順に段階的に単位を修得することが望ましい。

表5 建築実験の実験項目と担当者一覧

実験科目名と担当責任者	実験項目と担当者
建築基礎実験（必修・2単位） 宮里	化学実験（一般化学：小泉） 物理実験（一般物理：伴） 専門科目 構造部材（宮里） 構造強度（宮里） 風洞実験（三橋、下村、広部） 振動実験（古橋（剛）、泰）
建築生産実験（必修・1単位） 中田	木材・コンクリート実験（中田、飛坂、和美） 鋼材実験（三橋、泰）
建築環境実験（環境・構造コース：必修、他コース：選択；1単位）井上	騒音実験（井上、雷田） 設備実験（池田、蜂巢） 光実験（橋本、加藤）
建築構造実験（環境・構造コース：必修、設計・計画コース：選択；1単位）宮里	構造安定実験（宮里） 構造部材実験（白井、田嶋、清水（泰）） 土質実験（安達、山田）

（注）実験項目については、担当者の研究室へ、可否その他総合的な質疑は、担当責任者に問い合わせること

表6 建築設計科目一覧

学年	前・後期	科目
1年	前期	デザイン基礎
	後期	建築設計Ⅰ
2年	前期	建築設計Ⅱ
	後期	建築設計Ⅲ
		設計演習Ⅰ
3年	前期	建築設計Ⅳ*
		設計演習Ⅱ
	後期	建築設計Ⅴ
		設計演習Ⅲ
	夏季集中	デザインワークショップⅠ、Ⅱ
4年	前期	建築設計Ⅵ
	夏季集中	デザインワークショップⅠ、Ⅱ
	前・後期	卒業研究・設計

■ 全コース必修

*設計・計画コース、企画経営コースの学生は必修

建築士受験資格について

平成 20 年 11 月 28 日に改正建築士法が施行され、この改正で建築士受験資格の見直しがなされている。大学に関係する部分では、学歴要件、実務経験要件の変更がある。

学歴要件

建築士試験の受験資格について、「所定の学科卒業」という従来の要件から、「国土交通大臣が指定する科目を修めて卒業」という要件に変更された。この見直しは平成 21 年度入学生から適用される。法施行時（平成 20 年 11 月 28 日）にすでに所定の学科を卒業している人、所定の学科に在学中の学生には従来の学歴要件が適用される。

新制度では学科が国土交通大臣に対して開講科目を登録し、学生一人ひとりが卒業までに履修した科目の内訳と単位数に応じて、建築士受験資格を得ることになる。

建築学科では、平成 21 年度～ 24 年度入学生に対しては 92 科目 173 単位が登録されている。環境・構造、設計・計画の 2 コースは卒業条件を満たすだけで、自動的に実務経験 2 年で一級建築士の受験資格が、実務経験 0 年で二級・木造建築士の受験資格が得られる。一方、企画経営コースは卒業条件を満たすだけでは実務経験 2 年で一級建築士の受験資格が得られず、実務経験 3 年で一級建築士の受験資格が、実務経験 0 年で二級・木造建築士の受験資格が得られる。実務経験 2 年で一級建築士の受験資格を得るためには、履修科目の計画にあたって注意が必要である。登録科目についてはクラス担任に確認してほしい。

実務経験要件

建築士の受験には、学歴要件の他に定められた期間の実務経験が必要である。従来は大学院博士前期課程の修了が 2 年間の実務経験に認められていたが、新制度では、大学院における建築設計（意匠設計、構造設計、設備設計等）・工事監理に関するインターンシップを必須条件として、これと連携した演習・実習等の科目、講義科目の単位取得状況に応じて実務経験年数を算定する。この見直しは平成 21 年度大学院入学生から適用される。法施行時（平成 20 年 11 月 28 日）にすでに所定の課程を修了している人、所定の課程に在学中の大学院生には従来の実務経験年数の算定が適用される。

新制度では専攻科が国土交通大臣に対して開講科目を登録し、学生一人ひとりが大学院修了までに履修した科目の内訳と単位数に応じて、実務経験年数を算定する。

建築学専攻科では、平成 23 年度入学生に対しては、夏季休暇、春季休暇を利用する学外のインターンシップⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴの他、学内のインターンシップ 2 科目と関連する演習・実習 7 科目、講義 13 科目が登録されている。

これらの科目を履修することで、意匠設計、構造設計、設備設計の各専門領域で 1 年または 2 年の実務経験年数を得ることが可能になっている。履修の仕方によっては、実務経験年数が 0 年となることもある。

履修計画にあたっては、学外のインターンシップは夏季休暇、春季休暇を利用すること、大学院修了の単位数には入らないこと等注意すべき点がある。自己の将来設計を考慮して、履修科目の計画をする必要がある。登録科目についてはクラス担任に確認してほしい。

インターンシップ

インターンシップは性格の異なる 2 種類で構成されている。1 つは学外の建築士事務所等における実務訓練であり、もう 1 つは専任教員（実務として設計活動を行っている建築家／一級建築士＝プロフェッサー・アーキテクト）と設計事務所を自ら経営ないしチーフ・アーキテクトとして活動している建築家（非常勤講師／一級建築士）が連携して学内で行われる設計実務訓練である。

表 7 指定科目に係る必要単位数と必要な建築実務の経験年数（大学）

指定科目	一級建築士試験			二級・木造建築士試験		
	7 単位	7 単位	7 単位	5 単位	5 単位	5 単位
①建築設計製図	7 単位	7 単位	7 単位	5 単位	5 単位	5 単位
②建築計画	7 単位	7 単位	7 単位			
③建築環境工学	2 単位	2 単位	2 単位	7 単位	7 単位	7 単位
④建築設備	2 単位	2 単位	2 単位			
⑤構造力学	4 単位	4 単位	4 単位			
⑥建築一般構造	3 単位	3 単位	3 単位	6 単位	6 単位	6 単位
⑦建築材料	2 単位	2 単位	2 単位			
⑧建築生産	2 単位	2 単位	2 単位	1 単位	1 単位	1 単位
⑨建築法規	1 単位	1 単位	1 単位	1 単位	1 単位	1 単位
①～⑨の計 (a)	30 単位	30 単位	30 単位	20 単位	20 単位	20 単位
⑩その他 (b)	適宜	適宜	適宜	適宜	適宜	適宜
(a) + (b)	60 単位	50 単位	40 単位	40 単位	30 単位	20 単位
必要な実務経験年数	2 年	3 年	4 年	0 年	1 年	2 年

表 8 実務経験年数と必要単位数

必要単位数		インターンシップ の単位数	インターンシップ関連科目 の単位数	
実務経験 2 年	実務経験 1 年		演習・実験・ 実習	講義
30 単位以上	15 単位以上	4 単位以上	8 単位以下	8 単位以下

建築学科 専門科目使用教科書並びに参考書

(教科書は太字, その他は主要参考書)

科目名	書 名	編著者名・訳者名など	発行所名	定価(税込)	取 扱 所
環境の計画と技術	環境工学用教材 環境編	日本建築学会 編	丸善	1,937	書店
構造の計画と技術	空間 構造 物語	斎藤公男	彰国社	3,780	書店
	建築の絵本 建築構造のしくみ	川口 衛 他	彰国社	2,625	書店
建築デザインと歴史	建築デザインの戦略と手法 —作品分析による実例トレーニング	サイモン・アンウイン 著 重枝 豊 監訳 上利益弘 訳	彰国社	3,360	ガイダンス時に案内
環境工学Ⅰ	建築環境工学 [改訂3版]	田中俊六, 武田 仁 他	井上書院	3,150	書店
	建築環境工学用教材 環境編	日本建築学会	日本建築学会	1,937	書店
環境工学Ⅱ	建築音響と騒音防止計画	木村 翔	彰国社	3,570	建築音響研究室 (ガイダンス時に案内)
	建築環境工学用教材 環境編	日本建築学会 編	丸善	1,937	書店
建築設備Ⅰ, Ⅱ, Ⅲ	建築設備学教科書 新訂第二版	建築設備学教科書研究会 編著	彰国社	3,780	書店
	環境工学用教材 設備編	日本建築学会 編	日本建築学会	1,937	書店
	空気調和設備の実務の知識	空気調和・衛生工学会 編	オーム社	4,434	書店
	給排水・衛生設備の実務の知識	空気調和・衛生工学会 編	オーム社	4,414	書店
	暮らしの技術としての建築設備入門	吉田あきら 他	理工図書	4,148	書店
	新建築設備叢書16 建築設備概論第二版	吉田燦	彰国社	4,200	
環境計画	実務的騒音対策指針 第二版	日本建築学会 編	技報堂出版	4,725	建築音響研究室 (ガイダンス時に案内)
建築基礎実験・建築生産実験	建築材料実験用教材	日本建築学会	三美印刷	1,995	書店
	建築実験法 はじめてまなぶちからとかたち	建築系学科 共著 日本建築学会	彰国社 日本建築学会	5,077 1,995	書店 書店
構造力学Ⅰ, Ⅱ	建築構造力学 (上巻)	齋藤謙次	理工図書	2,467	ガイダンス時に案内
	建築の構造とデザイン	斎藤公男 監訳	丸善	2,940	書店
	わかる建築学4 建築構造学	安達, 丸田 編	学芸出版社	2,940	書店
構造力学Ⅲ, Ⅳ	建築構造力学 (下巻)	齋藤謙次	理工図書	2,467	ガイダンス時に案内
	建築の構造とデザイン	斎藤公男 監訳	丸善	2,940	書店
	鋼構造塑性設計指針	日本建築学会	日本建築学会	4,200	日本建築学会, 書店
	わかる建築学4 建築構造学	安達, 丸田 編	学芸出版社	2,940	書店
構造力学演習Ⅰ, Ⅱ, Ⅲ, Ⅳ	建築構造力学演習(上, 下)	齋藤謙次	理工図書	各1,837	ガイダンス時に案内
建築材料Ⅰ, Ⅱ	最新建築材料学		井上書院		ガイダンス時に案内
応用力学Ⅰ, Ⅱ	建築材料力学	榎並 昭	彰国社	2,783	地盤基礎研究室(565B)

科目名	書 名	編著者名・訳者名など	発行所名	定価(税込)	取 扱 所
応用力学演習Ⅰ,Ⅱ	建築応用力学演習	加藤 渉, 榎並 昭	共立出版	2,310	書店
構造とデザイン	空間 構造 物語	斎藤公男	彰国社	3,780	書店
	建築の絵本 建築構造のしくみ	川口 衛 他	彰国社	2,625	書店
	建築の構造とデザイン	斎藤公男 監訳	丸善	2,940	書店
	柱のない空間 ースポーツ・イベント・展示ホールー	日本建築学会	彰国社	1,937	空間構造デザイン研究室(569A)
建築構法Ⅰ	図説テキスト 建築構造 (構造システムを理解する)		彰国社	2,730	書店
	構造用教材	日本建築学会	日本建築学会	1,937	書店
建築構法Ⅱ	建築施工用教材	日本建築学会	三美印刷	1,995	ガイダンス時に案内
	構造用教材	日本建築学会	日本建築学会	1,937	
	図解テキスト 基本建築学	上杉 啓, 真鍋恒博 他	彰国社	4,410	
振動工学, 対地震構造	応答性能に基づく 「対震設計」入門	石丸辰治	彰国社	4,830	ガイダンス時に案内
鋼構造	鋼構造の設計	佐藤邦昭	鹿島出版会	3,570	書店
	鋼構造設計演習	日本鉄鋼連盟	技報堂出版	4,935	書店
	鋼構造設計規準	日本建築学会 編	日本建築学会	5,040	日本建築学会, 書店
鉄筋コンクリート構造Ⅰ,Ⅱ	コンクリート構造	本岡順二郎	彰国社	2,835	ガイダンス時に案内 書店
	鉄筋コンクリート構造の設計 一学びやすい構造設計		技報堂	5,250	
建築施工法, 建築積算	建築の施工と見積	建築の施工と見積研究会	彰国社	4,620	鋼構造研究室(568B)
地盤基礎工学Ⅰ,Ⅱ	基礎構造の設計 一学びやすい構造設計一	日本建築学会関東支部	日本建築学会 関東支部	3,600	地盤基礎研究室(565B)
	建築基礎構造設計指針 (2001改定)	日本建築学会	日本建築学会	5,670	日本建築学会, 書店
構造設計法及び演習Ⅰ 構造設計Ⅱ	鉄筋コンクリート構造計算規準・同解説2010	日本建築学会	日本建築学会	6,720	日本建築学会, 書店
	建築学構造シリーズ 建築空間構造	皆川洋一 編著	オーム社	3,990	空間構造デザイン研究室(569A)
	構造設計論	佐藤邦昭	鹿島出版会	3,255	書店
	鋼構造設計規準	日本建築学会 編	日本建築学会	5,040	日本建築学会, 書店
測量及び実習	実用測量	伊澤倫一郎	理工図書	4,095	ガイダンス時に案内
構造解析法	エクセル有限要素法入門 骨組構造解析編	山下四郎, 田中寿美	山海堂	3,200	書店
デザイン基礎 建築設計Ⅰ	建築デザインの基礎 製図法から生活デザインまで	本杉省三, 佐藤慎也, 山中新太郎, 山崎誠子 他	彰国社	2,310	書店
建築法規Ⅰ	基本建築関係法令集 (法令編) 平成23年版	国土交通省住宅局建築指導課 建築技術者試験研究会	霞ヶ関出版	2,940	書店もしくは 指定された日に購入
建築法規Ⅱ	建築家の法律学入門	大森文彦 著	彰国社	1,995	ガイダンス時に案内
	建築工事の瑕疵責任入門	大森文彦 著	大成出版社	1,785	ガイダンス時に案内

科目名	書 名	編著者名・訳者名など	発行所名	定価(税込)	取 扱 所
建築計画Ⅰ・Ⅱ	建築計画を学ぶ	建築計画教材研究会 編	理工図書	3,675	ガイダンス時に案内
	第3版 コンパクト建築設計資料集成	日本建築学会編	丸善	5,040	ガイダンス時に案内
建築人間工学	建築設計資料集成 一人間	日本建築学会	丸善	9,870	書店
	建築人間工学事典	日本建築学会	彰国社	3,780	書店
	生活空間の体験ワークブック	日本建築学会	彰国社	2,415	書店
	人間工学からの環境デザイン	東京商工会議所	東京商工会議所	4,725	書店
設計計画Ⅰ	建築計画を学ぶ	建築計画教材研究会	理工図書	3,675	書店
	設計方法Ⅴ	日本建築学会、建築計画委員会、設計方法小委員会	彰国社	2,447	書店
	一設計方法と設計主体	池辺 陽	丸善	3,675	書店
	デザインの鍵	建築デザインと環境計画	朝倉書店	5,040	書店
設計計画Ⅲ	場所の空間学	宇杉和夫	古今書院	未定	ガイダンス時に案内
	日本住宅の空間学	宇杉和夫	理工図書	3,200	書店
	事例で読む現代集合住宅のデザイン	日本建築学会	彰国社	2,730	書店
	日本の空間認識と景観構成	宇杉和夫	古今書院	11,200	書店
ランドスケープデザイン	見沼田んぼの景観学	宇杉和夫	古今書院	2,600	書店
	世界で一番やさしい住宅用植栽	山崎誠子	エクスナレッジ	2,940	書店
建築史Ⅰ	新・緑のデザイン図鑑	山崎誠子	エクスナレッジ	4,200	書店
	日本建築図集	小林文次 他	相模書房	2,625	書店
建築史Ⅱ、Ⅲ	日本建築史序説	太田博太郎	彰国社	2,940	書店
	図説 近代建築の系譜	大川三雄 他	彰国社	3,360	建築史・建築論研究室(ガイダンス時に案内)
	日本の近代建築(上、下)	藤森照信	岩波新書	各651	書店
	図説 近代日本住宅史	大川三雄 他	鹿島出版会	3,360	書店
	建築モダニズム	大川三雄 他	エクスナレッジ	3,150	書店
建築史Ⅳ	近代和風を探る(上、下)	大川三雄 他	エクスナレッジ	各1,470	書店
	東洋建築史図集	日本建築学会 編	彰国社	3,255	書店
都市計画Ⅰ、Ⅱ	新建築学大系3 東洋建築史		彰国社	7,088	書店
	都市の計画と設計 第2版	小嶋勝衛 監修	共立出版	3,675	書店
	都市計画 第3版	日笠 端, 日端康雄	共立出版	4,095	書店
都市デザイン	初めて学ぶ都市計画	根上彰生 他	市ヶ谷出版	3,150	書店
	都市の計画と設計 第2版	小嶋勝衛 監修	共立出版	3,675	書店
不動産企画 住環境デザイン 不動産開発プロジェクト	まちづくりデザインのプロセス	日本建築学会 編	丸善	1,995	書店
	都市・建築・不動産企画開発マニュアル	エクスナレッジ編集部	エクスナレッジ	4,935	書店

平成23年度 短期大学部建設学科 履修要項

はじめに

本短期大学部は必要単位を取得することによって卒業が認められるため、どの科目を選択するか（＝履修計画）については各自に自由が与えられるとともに責任が生じる。各々が必要な情報をしっかりと収集し、自分の将来設計を見据えて履修計画を練ることが肝要である。本頁の内容をよく理解し、「学園生活」「時間割」を用いて履修計画を立てること。また、学科で作成している「Navigation for Students 一新入生の手引き」も熟読すること。履修登録や学園生活全般にわたり不明なことがあれば、遠慮することなくクラス担任の諸先生（表1）に相談してほしい。

建設学科における卒業最低条件は、表2に示すように合計62単位（総合科目12単位以上、基礎教育科目7単位以上、専門教育科目36単位（必修:28単位、選択:8単位）以上、科目区分によらない任意の単位7単位以上）を取得しなければならない。これは、短期大学部の教育理念が完成教育を目指したものであり、諸君の勉学が偏ることなく建築全般にわたって学習できるようにしたものである。本稿では履修計画を立てる際に知っておいてほしい諸制度〔成績評価、GPA（グレード・ポイント・アベレージ）制度、履修科目の登録単位数の上限、単位互換制度、科目等履修生制度、学芸員課程、履修コースの選定〕について概説し、さらに、建築デザインと建築実験の受講に際する注意を述べる。

成績表の表記について

GPA制度導入に伴い成績表および成績証明書の表記が変更される。成績表はS、A、B、C、D、N（S:90点以上、A:80点以上、B:70点以上、C:60点以上、D:59点以下、N:認定）と表記される（表3参照）。また、学期GPA、年間GPA、累積GPA（次節参照）が記載される。なお、成績証明書にはD（59点以下）は表記されず、GPAは

累積GPAのみの記載となる。

GPA（グレード・ポイント・アベレージ）制度について

GPA制度は、各自の学修成果を客観的に数値で表したものであり、日頃の学修成果を確認することができる。計算方法は以下の通りである。

- ①各取得科目の成績評価に従い、グレード・ポイントを与える（表3参照）。
- ②各取得科目のグレード・ポイントに単位数を乗じてこれらの総和を取り、履修登録した科目の総単位数で割ったものをGPA（グレード・ポイント・アベレージ）とする（(1)式・表4参照）。表4の例では、 $GPA = 19/9 = 2.11$ となる。

表1 クラス担任

学年	氏名	研究室	電話番号(内線)
1年	田所辰之助	船橋校舎 5号館 545・B	047-469-(5566)
	矢代 眞己	船橋校舎 5号館 546・A	047-469-(5819)
2年	黒木二三夫	船橋校舎 9号館 921・B	047-469-(5444)
	酒匂 教明	船橋校舎 9号館 926・A	047-469-(5487)

表2 卒業に必要な単位

科目区分		卒業要件単位数
総合教育科目		12
基礎教育科目		7
専門教育科目	必修科目（17科目）	28
	選択科目	8
科目区分によらない任意の単位		7
総計		62

表3 成績表上の表記とグレード・ポイント

	成績表上の表記	グレード・ポイント
90点以上	S	4
80点以上	A	3
70点以上	B	2
60点以上	C	1
59点以下	D	0
認定	N	—

$$\text{GPA} = \frac{(\text{科目で得たグレード・ポイント} \times \text{科目の単位数}) \text{の総和}}{\text{履修登録したすべての科目の総単位数}} \quad (1)$$

GPA には学期ごとに履修登録した科目と修得した科目から算出される学期 GPA と現在までに履修登録した科目と修得した科目から算出される累積 GPA がある。また、GPA の計算に含まれない科目は以下の通りである。

- 1) 履修中止を行った科目
- 2) 卒業に必要な総単位数 62 単位に含まれない単位（部外単位）
- 3) 理工学部の科目等履修生・教職課程科目の単位

現在、GPA は次に述べる履修科目の登録単位数の上限緩和にも関わるのでよく確認しておく必要がある。

履修科目の登録単位数の上限

学期ごとに履修登録できる単位数には上限が設けられており、1 年次前学期は 29 単位、1 年次後学期および 2 年次前・後学期は 25 単位となる。また、各年次のサマーセッション（夏季集中授業）とスプリングセッション（春季集中授業）では別枠で、それぞれ 6 単位を上限に履修登録することができる。

ただし、直前の学期 GPA（グレード・ポイント・アベレージ）が 2.5 以上であり、かつ当該学期での修得単位数のうち卒業要件に参入することのできる単位数が 21 単位以上であれば、次学期の履修登録の上限は 29 単位となる。

4 月当初の履修計画は、履修する科目の登録単位数の上限を超えないように、かつ所要の科目が履修できないということがないように気をつけること。なお、導入教育科目については、登録単位数としてカウントしない。

単位互換制度

本短期大学部生が日本大学理工学部の開設科目の一部を履修できるという制度である。履修に際しては、どの科目が開講されているか教務課もしくはクラス担任に開設科目を問い合わせ、受講する場合には、指定用紙に科目担当師の承諾印をもらい、教務課に提出する必要がある。なお、単位互換制度によって取得した単位を卒業に必要な単位として算入できるかについてはクラス担任に確認の上、履修登録すること。

科目等履修生制度

科目等履修生制度とは、大学入学資格を有する人が、大

学および短期大学の特定の授業科目を履修することができる制度である。そのため、科目等履修生制度を利用して他学部の講座を受講するためには、教務課またはクラス担任に開講科目、申請要領を確認し、指定期日までに受講申請をしなくてはならない。また受講に際し審査があり、受講許可された科目に対して、指定された授業料を納めることによって受講が可能となる。なお、教職課程科目もこの制度を利用して受講することになる。教職課程科目については別途ガイダンスがあるので、履修希望者は指定された期日に必ずガイダンスに参加すること。

学芸員課程

学芸員とは博物館法第 4 条第 4 項「博物館資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これに関する事業についての専門的事項をつかさどる」と定められており、専門職員として博物館などの事業に携わるために必要な資格である。平成 17 年度より理工学部に学芸員課程が設置された。短期大学部生は理工学部に編入学が決定した者が受講可能となる。学芸員課程については年度初めに「学芸員ガイダンス」が開かれる。希望者はガイダンスに参加すること。

履修コースの選定

建設学科に設置されている建築エンジニアリングコース・建築デザインコース・福祉住環境コースの選定は 2 年次初めに自由に選択することができる。1 年次に建築に関する基礎的な教育科目を履修し、自分が今後どのコースで主に学んでいきたいのか、どのコースに向いているのか、将来の進むべき道を見据えて選択すること。履修コースを選択することにより、おのずと選択必修科目が設定される（表 5）。なお、所属コースによらず建設学科設置の専門科目は自由に履修することができる。

必修科目

必修科目は卒業するために必ず取得しなければならない科目のことである。また、1 年次に設置してある科目は原則として 1 年次に受講すること。以下に、建築を学ぶにあたり根幹となる 2 つの科目群について説明する。

1. ベーシック建築デザイン、建築デザインⅠ・Ⅱ・Ⅲ

建築デザインは建築の総合的表現の修得を目的とするものであるため、長時間の実技的な修練が必要となる。

そのためには、各課題に対し所定の時間に確実に完了し、力量を積み重ねていかなければならない。受講に際し、専用の受講票をガイダンス時に配布するので、所定事項を記入し、顔写真を貼付して提出すること。建築デザインⅠ・Ⅱ・Ⅲでは、課題出題日時・作品提出日時などが記載された「課題集」が配布されるので、すべての課題に対し担当師の指導を毎週受け、課題提出日に作品を完成させて提出しなければならない。なお、建築デザインⅠ・Ⅱ・Ⅲを受講するためにはベーシック建築デザインの単位を取得している必要がある。

2. 建築実験Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ

学期はじめに各担当師により詳細な説明が行われる。実験は重複しないようにスケジュールが決定され、ホームルーム（1年次：1112教室、2年次：243教室）に掲示される。すべての実験を所定の日時に受講し、レポートを提出しなければならない。なお、レポートの受理の際には受領書を渡されるので、単位取得が確認できるまで保管しておくこと。やむを得ない理由などにより所定の日時に受講できない場合には、速やかに各実験担当師に申し出て指示を受けること。

表4 GPA算出の例

科目名	単位数	評価	グレード・ポイント	単位数×グレード・ポイント
国語表現法Ⅰ	1	A	3	3
英語講読Ⅰ	1	C	1	1
基礎物理学	2	B	2	4
基礎微積分	2	S	4	8
日本国憲法	2	D	0	0
スポーツⅠ	1	A	3	3
計	9			19

表5 履修コース別選択必修科目

コース別選択必修科目の修得単位数は、専門科目修得単位数に含まれます。他コースの科目でも履修できます。

コース	2年次				履修方法
	前学期	単位	後学期	単位	
建築エンジニアリング	応用力学Ⅱ	2	構造力学Ⅲ	2	左記科目より8単位以上を修得する
	応用力学演習Ⅱ	1	構造力学演習Ⅲ	1	
	構造力学演習Ⅱ	1	建築設備概論	2	
	環境工学Ⅱ	2	構造の計画と設計	2	
	鉄筋コンクリート構造	2	木構造及び鋼構造	2	
	土質及び基礎構造	2	耐震防災計画	2	
建築デザイン	建築史Ⅱ	2	デザイン論	2	左記科目より8単位以上を修得する
	建築計画Ⅱ	2	都市計画概論	2	
	構造デザイン	2	建築史Ⅰ*	2	
	建築メディアデザイン演習Ⅰ	1	建築メディアデザイン演習Ⅱ	1	
	ベーシック建築計画*	2	インテリア計画	2	
	建築ものづくりワークショップⅠ**	1			
福祉住環境	建築ものづくりワークショップⅡ*	2			左記科目より8単位以上を修得する
	建築ユニバーサルデザイン論	2	福祉住環境概論	2	
	環境工学Ⅱ	2	障害者支援論	2	
	建築ものづくりワークショップⅡ*	2	建築設備概論	2	
	一般構法*	2	人間工学*	2	
	建築ものづくりワークショップⅠ**	1	環境工学Ⅰ*	2	
			建築材料Ⅱ*	2	

*サマーセッション科目 ※1年次設置科目

短期大学部建設学科 専門科目使用教科書並びに参考書

(教科書は太字, その他は主要参考書)

科目名	書名	編著者名・訳者名など	発行所名	定価(税込)	取扱所
建設学スタディ・スキルズ	知的な科学・技術文書の書き方 ー実験レポート作成から学術論文構築までー演習 知的な科学技術文章の書き方	中島利勝, 塚本真也	コロナ社	1,995	書店
		塚本真也	コロナ社	1,890	書店
ベーシック建築デザイン	新・設計基礎(計画・製図・模型・写真) 建築計画・設計シリーズ42	高木幹朗 他	市ヶ谷出版社	2,520	書店
ベーシック建築計画	建築計画基礎: 計画の原点を学ぶ	吉村英祐 他	学芸出版社	3,150	書店
建築計画Ⅰ	第2版 コンパクト建築設計資料集成〈住居〉	日本建築学会 編	丸善	6,510	書店
建築計画Ⅱ	第3版 コンパクト建築設計資料集成	日本建築学会 編	丸善	5,040	書店
建築法規	建築関係法令集 (法令編) 平成23年版	総合資格学院 編	総合資格	2,940	書店(巖翠堂)

そのためには、各課題に対し所定の時間に確実に完了し、力量を積み重ねていかなければならない。受講に際し、専用の受講票をガイダンス時に配布するので、所定事項を記入し、顔写真を貼付して提出すること。建築デザインⅠ・Ⅱ・Ⅲでは、課題出題日時・作品提出日時などが記載された「課題集」が配布されるので、すべての課題に対し担当師の指導を毎週受け、課題提出日に作品を完成させて提出しなければならない。なお、建築デザインⅠ・Ⅱ・Ⅲを受講するためにはベーシック建築デザインの単位を取得している必要がある。

2. 建築実験Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ

学期はじめに各担当師により詳細な説明が行われる。実験は重複しないようにスケジュールが決定され、ホームルーム（1年次：1112 教室，2年次：243 教室）に掲示される。すべての実験を所定の日時に受講し、レポートを提出しなければならない。なお、レポートの受理の際には受領書を渡されるので、単位取得が確認できるまで保管しておくこと。やむを得ない理由などにより所定の日時に受講できない場合には、速やかに各実験担当師に申し出て指示を受けること。

表4 GPA算出の例

科目名	単位数	評価	グレード・ポイント	単位数×グレード・ポイント
国語表現法Ⅰ	1	A	3	3
英語講読Ⅰ	1	C	1	1
基礎物理学	2	B	2	4
基礎微積分	2	S	4	8
日本国憲法	2	D	0	0
スポーツⅠ	1	A	3	3
計	9			19

表5 履修コース別選択必修科目

コース別選択必修科目の修得単位数は、専門科目修得単位数に含まれます。他コースの科目でも履修できます。

コース	2年次				履修方法
	前学期	単位	後学期	単位	
建築エンジニアリング	応用力学Ⅱ	2	構造力学Ⅲ	2	左記科目より8単位以上を修得する
	応用力学演習Ⅱ	1	構造力学演習Ⅲ	1	
	構造力学演習Ⅱ	1	建築設備概論	2	
	環境工学Ⅱ	2	構造の計画と設計	2	
	鉄筋コンクリート構造	2	木構造及び鋼構造	2	
	土質及び基礎構造	2	耐震防災計画	2	
建築デザイン	建築史Ⅱ	2	デザイン論	2	左記科目より8単位以上を修得する
	建築計画Ⅱ	2	都市計画概論	2	
	構造デザイン	2	建築史Ⅰ*	2	
	建築メディアデザイン演習Ⅰ	1	建築メディアデザイン演習Ⅱ	1	
	ベーシック建築計画*	2	インテリア計画	2	
	建築ものづくりワークショップⅠ**	1			
	建築ものづくりワークショップⅡ*	2			
福祉住環境	建築ユニバーサルデザイン論	2	福祉住環境概論	2	左記科目より8単位以上を修得する
	環境工学Ⅱ	2	障害者支援論	2	
	建築ものづくりワークショップⅡ*	2	建築設備概論	2	
	一般構法*	2	人間工学*	2	
	建築ものづくりワークショップⅠ**	1	環境工学Ⅰ*	2	
			建築材料Ⅱ*	2	

*サマーセッション科目 ※1年次設置科目

短期大学部建設学科 専門科目使用教科書並びに参考書

(教科書は太字，その他は主要参考書)

科目名	書名	編著者名・訳者名など	発行所名	定価(税込)	取扱所
建設学スタディ・スキルズ	知的な科学・技術文書の書き方 ー実験レポート作成から学術論文構築までー演習 知的な科学技術文章の書き方	中島利勝，塚本真也	コロナ社	1,995	書店
		塚本真也	コロナ社	1,890	書店
ベーシック建築デザイン	新・設計基礎(計画・製図・模型・写真) 建築計画・設計シリーズ42	高木幹朗 他	市ヶ谷出版社	2,520	書店
ベーシック建築計画	建築計画基礎：計画の原点を学ぶ	吉村英祐 他	学芸出版社	3,150	書店
建築計画Ⅰ	第2版 コンパクト建築設計資料集成〈住居〉	日本建築学会 編	丸善	6,510	書店
建築計画Ⅱ	第3版 コンパクト建築設計資料集成	日本建築学会 編	丸善	5,040	書店
建築法規	建築関係法令集(法令編)平成23年版	総合資格学院 編	総合資格	2,940	書店(巖翠堂)

科目名	書 名	編著者名・訳者名など	発行所名	定価(税込)	取 扱 所
都市計画概論	都市の計画と設計「第2版」	小嶋勝衛 監修	共立出版	3,465	岡田研究室
建築史Ⅰ	中世日本建築工匠史 日本建築史序説	浜島一成 太田博太郎	相模書房 彰国社	3,360 2,940	ガイダンス時に指示 書店
建築史Ⅱ	西洋建築史図集 マトリクスで読む 20世紀の空間デザイン	日本建築学会 編 矢代眞己, 田所辰之助, 濱寄良実	彰国社 彰国社	2,625 2,625	書店 書店
デザイン論	マトリクスで読む 20世紀の空間デザイン 図説 近代建築の系譜	矢代眞己, 田所辰之助, 濱寄良実 大川三雄 他	彰国社 彰国社	2,625 3,360	田所研究室 (545B) 田所研究室 (545B)
空間デザイン	空間 構造 物語 建築構造のしくみ 図解事典 建築のしくみ	斎藤公男 川口 衛 他 建築図解事典編集委員会 編	彰国社 彰国社 彰国社	3,780 2,625 3,990	黒木研究室 (921B) 黒木研究室 (921B) 黒木研究室 (921B)
一般構法	建築学テキスト 建築構法 建築物のしくみを学ぶ	武田雄二 他	学芸出版社	3,360	書店
木構造および鋼構造	3階建てまでできる —記入式2×4の構造設計入門	鈴木雄司	彰国社	3,150	ガイダンス時に指示
建築材料Ⅰ, Ⅱ	最新建築材料科学	松井 勇, 出村克宣, 湯浅 昇, 中田善久	井上書院	3,150	建築教室事務局(915)
応用力学Ⅰ, Ⅱ	建築材料力学	榎並 昭	彰国社	2,783	ガイダンス時に指示
応用力学演習Ⅰ, Ⅱ	応用力学演習問題解析法	西村敏雄	理工図書	4,935	ガイダンス時に指示
構造力学Ⅰ, Ⅱ	建築構造力学 (上巻)	齋藤謙次	理工図書	2,467	ガイダンス時に指示
構造力学演習Ⅰ, Ⅱ	建築構造力学演習 (上巻)	齋藤謙次	理工図書	1,837	ガイダンス時に指示
構造力学Ⅲ	建築構造力学 (下巻)	齋藤謙次	理工図書	2,467	ガイダンス時に指示
構造力学演習Ⅲ	建築構造力学演習 (下巻)	齋藤謙次	理工図書	1,837	ガイダンス時に指示
鉄筋コンクリート構造	コンクリート構造	本岡順二郎	彰国社	2,835	ガイダンス時に指示
土質力学及び基礎構造	地盤工学入門	地盤工学会 編	地盤工学会	3,675	書店
建築施工法	建築施工用教材	日本建築学会	日本建築学会	1,995	書店
ベーシック建築環境	環境教育用教材 学校のなかの地球	日本建築学会 編	日本建築学会	2,100	吉野研究室 (545A)
環境工学Ⅰ	最新 建築環境工学 建築環境工学用教材 環境編 住宅の環境設計データブック	田中俊六 他 日本建築学会 編 日本建築学会 編	井上書院 日本建築学会 丸善	3,150 1,937 3,150	書店 書店 書店
環境工学Ⅱ	建築音響と騒音防止計画 建築環境工学用教材 環境編	木村 翔 日本建築学会 編	彰国社 日本建築学会	3,570 1,937	羽入研究室 (622A) 書店
建築設備概論	建築設備学教科書 新訂第二版 建築環境工学用教材 設備編	建築設備学教科書研究会 日本建築学会 編	彰国社 日本建築学会	3,780 1,937	書店 書店
福祉住環境概論	生活環境論入門 Media 5 Premier V 福祉住環境コーディネーター検定試験2・3級 Windows DVD-ROM	徳田良英 著 徳田良英 監修・解説	DTP出版 メディアファイブ	2,835 10,290	ガイダンス時に指示
建築ユニバーサルデザイン論	福祉住環境コーディネーター検定試験3級公式テキスト改訂版 福祉住環境コーディネーター検定試験2級公式テキスト改訂版 子どもを事故と犯罪から 守る環境と地域づくり	東京商工会議所 編 東京商工会議所 編 野村 歡, 八藤後 猛 他	東京商工会議所 東京商工会議所 中央法規出版	2,625 4,725 2,310	書店 書店 書店
障害者支援論	福祉住環境コーディネーター検定試験3級公式テキスト 福祉住環境コーディネーター検定試験2級公式テキスト [図解]高齢者・障害者を考えた建築設計 障害者が居住する住宅の設計資料集	東京商工会議所 編 東京商工会議所 編 植崎雄之 国土交通省住宅局住宅総合整備課 監修	東京商工会議所 東京商工会議所 井上書院 ぎょうせい	2,625 4,725 3,150 2,095	書店 書店 書店 書店
人間工学	Ergonomics for beginners	J.Dul and B.Weerdmeester	Taylor&Francis		ガイダンス時に指示
情報処理	世界でいちばん簡単な Excel VBAのe本 最新版	道用大介	秀和システム	1,470	書店
建築メディアデザイン演習Ⅰ, Ⅱ	THE MAYA 5 perfect book	土田 仁	ビー・エヌ・ピー新社	5,250	ガイダンス時に指示
建築企画概論	都市・建築・不動産・企画開発マニュアル		エクスナレッジ	5,145	ガイダンス時に指示
海洋建築概論	海と海洋建築 海と科学 地球の海と気候	前田久明, 近藤健雄, 増田光一 柳 哲雄 寺本俊彦	成山堂 恒星社 御茶ノ水書房	4,830 1,995 840	大塚研究室 (545A) 書店 書店
建築測量学	実用測量	伊澤倫一郎	理工図書	4,095	ガイダンス時に指示

平成22年度 各賞受賞者一覧

優等賞*1 (学部・短期大学部)

小澤 恭平
綾戸 歩実
高野 美央
橋本 侑佳

濱野 和也
田中陽一郎
木村 梨絵
石野 史子

赤木 貴子
池田 智
山田 夏衣 (短期大学部)
廣嶋 実 (短期大学部)

齋藤賞*2 (大学院)

〈修士論文〉 堀川 真之 収縮・クリープを考慮した FEM による RC 柱の長期・短期性能評価と構造物への応用 指導：白井伸明教授
松本 敬 継続的な運動トレーニングが脊髄損傷者の温熱環境適応能力に及ぼす影響 指導：井上勝夫教授、蜂巣浩生専任講師

吉田鉄郎賞*3 (大学院)

〈修士論文〉 藤井さゆり 劇場外演劇における上演空間の研究 指導：本杉省三教授、佐藤慎也助教
〈修士設計〉 大野 佑太 押上通り沿道密集市街地更新計画
道路整備・拡幅に伴う沿道の高容積を利用した敷地の共同化と段階的建替え 指導：佐藤光彦准教授

駿建賞*4 (大学院)

〈修士論文〉 森實 幸子 住まい・まちづくりの支援制度に関する研究 助成財団による支援を対象として 指導：佐藤光彦准教授、山中新太郎助教
〈修士設計〉 岩木 友佑 新宿区西大久保公務員宿舍跡地における都市型集合住宅の計画 指導：本杉省三教授
夏目 将平 埼玉県深谷市における日本煉瓦工場再生計画 歴史的遺産を活用した煉瓦史料館の設計 指導：今村雅樹教授
檜垣 幸志 富士山五合目再生 文化的景観形成を目指した観光拠点施設の設計 指導：佐藤光彦准教授、山中新太郎助教
的場 弘之 伊勢神宮外宮参道構想
奥性からみる空間領域形式を用いた外宮参道沿道空間の構築及び神宮参拝文化施設群の計画 指導：横河 健教授

駿構賞*5 (大学院)

〈修士論文〉 清水 俊介 高応力脆性破壊を再現した引張試験データに基づく鋼構造柱梁接合部の脆性破壊防止方法 指導：半貫敏夫教授
中澤 史成 D.M. モード制御による鉄塔構造物の制震改修に関する研究 指導：古橋 剛准教授、秦 一平助教

桜建賞*6 (学部・短期大学部)

〈卒業研究〉 奈良 拓也・小田 雄太 重要文化財に対するバッファゾーン設定に関する環境工学的支援
銅御殿におけるビル風被害の検討と保護に向けた提案 指導：吉野泰子教授
杉山 正和 鉄筋の配筋位置が金属拡張系あと施工アンカーの引抜き耐力に及ぼす影響 指導：中田善久准教授
鈴木 沙綾 波形手すり使いやすさと視覚的評価に関する研究 指導：八藤後 猛准教授
中村林太郎 妙喜庵待庵における空間構成に関する一考察
南面側面からの採光計画にみる内部空間の構成について 指導：重枝 豊教授、小島陽子助手
石崎 駿平・清水 裕章 地方都市における「減築」を活用した賑わい創出に関する研究 指導：横内憲久教授
〈卒業設計〉 丸山 義貴 東京の群像 外神田における職住型集合住宅の提案 指導：今村雅樹教授
〈短期大学部卒業制作〉 吉田 悠真 都市に吹く風 神田神保町古本屋街に建つ複合型ライブラリーの計画 指導：田所辰之助准教授
梅沢 慎也 1/20 縮尺模型を用いた音楽ホールにおける拡散体の効果に関する検討 指導：羽入敏樹准教授

企画奨励賞*7 (学部企画経営コース)

石崎 駿平 Tachikawa pedestrian street 指導：企画経営コース専任教員

奨励賞*8 (大学院・学部)

〈修士論文〉 伊藤 唯 ファイバー解析に基づく既存 RC 建造物の損傷評価に関する研究 指導：白井伸明教授
長島明日香 住空間における床仕上げ材の適正弾性に関する検討 指導：井上勝夫教授
植村 嘉仁 住宅建設会社アイクラ・ホームズの住宅及び住宅地計画の手法とその特徴
L.A. モダニズムの潮流の中での生産活動 指導：大川三雄教授、小島陽子助手
〈卒業設計〉 鈴木 大介 1000m のエンガワ 北千住のプラットフォーム 指導：今村雅樹教授

駿優賞*9 (学部)

〈卒業研究〉稀代 康平・増井 智彰・渡辺 一成

疑似モード制御を利用したBMDシステムに関する基礎的研究

指導：古橋 剛准教授、秦 一平助教

駿建コンペティション業績賞*9 (大学院)

夏目 将平

今村研究室

桜工賞*10 (大学院・学部・短期大学部)

〈大学院〉佐脇三乃里・藤井さゆり

2009年度日本建築学会デザイン発表テーマ部門「住むところ 都市あるいは反都市」において発表した「+1人/日」が優秀発表として評価され顕彰された
佐藤慎也研究室

安田 真弓・安並 卓嗣

日本建築学会主催で平成21年度に開催されたアーキアリングデザイン展・巡回展において学生幹事として全国10会場での展示準備・設営・撤収作業に精力的に取り組んだ
岡田研究室

岩木 友祐・松本 晃一

インテリア産業協会主催「住まいのインテリアコーディネーションコンテスト2011」で、特別奨励賞を受賞した
本杉研究室、山中研究室

荒井 亮蔵

JPM学生コンテスト「私の住みたい夢のECOハウス」でアットホーム賞受賞。日本大学校門建築会学生設計コンペティションの佳作入賞
横河研究室

池田 真人

JPM学生コンテスト「私の住みたい夢のECOハウス」でアットホーム賞受賞。第3回高齢者いきいき住居アイデアコンテスト入選
横河研究室

小林 加奈

第36回日新工業建築設計競技「浜辺の棲処」で佳作を受賞した

今村研究室

的場 弘之・渡邊 貴道

「地球にやさしい住生活コンペティション」で「東京ガス賞」を受賞した

横河研究室

〈学部〉小笠原康介・更家 遼・栗原 晶子

建築学科アルバム作成委員会幹事として研究室の情報とりまとめに尽力し、出版社との連絡調整にあたった
岡田研究室

細山 輝明

青駿祭2009における構造デザイン研究会の企画展示にあたり、リーダーとして「建築展」の取りまとめに尽力した
岡田研究室

〈短期大学部〉山本 真子

クラス幹事代表を務めるとともに、オープンキャンパスや入学前オリエンテーションなど大学行事に学生代表として積極的に参加して協力した
短期大学部

不動産科学専攻研究奨励賞*11 (大学院不動産科学専攻)

大岡亜沙美 東京圏における既存建物を活用した高齢者専用賃貸住宅の供給に関する研究

指導：根上彰生教授、川島和彦専任講師

日本環境管理学会・木村賞*12 (大学院不動産科学専攻)

浅沼 大 地方自治体の建築物環境配慮評価制度が建築環境性能に与える効果に関する研究

指導：三橋博已教授

小嶋賞*13 (大学院不動産科学専攻)

赤澤加奈子 静岡県熱海市における分譲別荘地開発の変遷に関する研究

指導：三橋博已教授

学部長賞

松田 佳奈・原 友里恵・藤井さゆり・真砂 遥・森實 幸子

2009年に実施された「地球にやさしい住生活デザインコンペティション」にて、「1Rk」と題した作品により「優秀賞」(2等)および「クリナップ賞」を受賞した

今村研究室、佐藤慎也研究室、本杉研究室、山中研究室

*1 学部4年間および短期大学部2年間の学業成績が優秀であった学生に対し、日本大学より授与。

*2 大学院博士前期課程の環境系および構造系分野の優れた研究論文に対し、齋藤賞基金に基づき、校門建築会より授与。本学の中興の祖と呼ぶべき齋藤謙次先生の業績を記念して設けられた。齋藤賞基金は、齋藤謙次先生の寄金を元に設立、佐藤稔雄、榎並昭各先生の寄金を追加。

*3 大学院博士前期課程の設計・計画系分野の優れた研究論文および設計作品に対し、駿建賞基金に基づき、建築学科教室より授与。戦後復興期において本学の設計教育の礎を築かれた建築家であり、かつ日本の建築文化に関する優れた論考を残された吉田鉄郎先生の業績を記念して命名された。駿建賞基金は、小林文次、宮川英二、近江栄、小谷喬之助、木村翔、若谷峰郎各先生の寄金による。

*4 大学院博士前期課程の環境系および設計・計画系の優れた研究論文および設計作品に対し、駿建賞基金に基づき、建築学科教室より授与。駿建賞基金については*3参照。

*5 大学院博士前期課程の構造系分野の優れた研究論文に対し、駿構賞基金に基づき、建築学科教室より授与。駿構賞基金は、本岡順二郎、榎並昭各先生からの寄金を元に設立、構造系教授の寄金を追加。

*6 学部の優れた卒業研究論文および卒業設計作品に対し、校門建築会より授与。

*7 企画経営コースの優れた卒業企画設計作品に対し、企画経営コースの設立に奔走した、元専任教員、元理工学部長・総長・理事長の小嶋勝衛先生の基金に基づき、建築学科教室より授与。

*8 大学院博士前期課程の優れた研究論文および学部の優れた卒業設計作品に対し、理工学部校友会からの寄金に基づき、建築学科教室より授与。

*9 設計競技で優秀な成績を残した大学院博士前期課程の学生に対し、駿建賞基金に基づき、建築学科教室より授与。近江栄先生の発案により設立。駿建賞基金については、*3参照。

*10 学業以外で社会的に活躍した学生に対し、理工学部校友会より授与。

*11 大学院博士前期課程不動産科学専攻の優れた研究論文に対し、不動産科学専攻より授与。大学院不動産科学専攻専任教員、佐藤進、浅香勝輔各先生の基金による。

*12 大学院博士前期課程不動産科学専攻の優れた研究論文に対し、不動産科学専攻より授与。日本環境管理学会名誉会長木村宏先生の基金による。

*13 大学院博士前期課程不動産科学専攻の優れた研究論文に対し、不動産科学専攻より授与。不動産科学専攻の創設に奔走した、元専任教員、元理工学部長・総長・理事長の小嶋勝衛先生の基金による。平成21年度新設。

平成22年度 博士論文 修士論文・設計 タイトル一覧

大学院博士後期課程

主査：半貫敏夫教授，副査：秋山 宏名誉教授（東京大学），岡田 章教授，白井伸明教授 ————— 建築学専攻
石鍋雄一郎 建築物の耐震設計におけるエネルギー法の適用性に関する研究 損傷集中と P-Δ 効果に着目して

主査：安達俊夫教授，副査：秋山 宏名誉教授（東京大学），白井伸明教授，半貫敏夫教授 ————— 建築学専攻
下村 修一 エネルギーの釣合に基づく地盤の液化化に伴う沈下予測に関する研究

主査：根上彰生教授，副査：横内憲久教授，蔡秉善教授（韓国全北大学校） ————— 不動産科学専攻
梁 太植 韓国再開発事業における住民合意形成過程に関する研究

大学院博士前期課程

池田耕一教授 ————— 建築学専攻
増川 智聡 地下街における空気環境と気流に関する研究

井上勝夫教授 ————— 建築学専攻
狩野 桂佑 乾式二重床における重量床衝撃音の発生系及び改善方法の検討
関口 優子 建築空間の左右の違いが人の行動に与える影響
長島明日香 住空間における床仕上げ材の適正弾性に関する検討
吉澤 玲児 保育園における保育室内の音環境の実態に関する研究

井上勝夫教授・蜂巢浩生専任講師 ————— 建築学専攻
松本 敬 継続的な運動トレーニングが脊髄損傷者の温熱環境適応能力に及ぼす影響

井上勝夫教授・羽入敏樹（短大）准教授 ————— 建築学専攻
堀内 達朗 室内音場の瞬時インテンシティを用いた空間印象に関する評価指標の測定手法

岡田 章教授 ————— 建築学専攻
道下 祐貴 複層式ジオデシック・テンボラリードームの構造特性に関する基礎的研究
A-Dome の試行建設及び構造挙動の検討
栗田 基 ケーブルの降伏後の材料特性の把握と評価について
神崎 聡美 ビーム式空気膜構造の強風時における最適設定内圧に関する基礎的研究
福井 直輝 ETFE フィルムを用いたばねストラット式張力膜構造の風荷重時の構造挙動に関する研究
ストラットのばね剛性を考慮した初期導入応力の設定について
安並 卓嗣 テンセグリック・タワーの張力消失時における動的挙動に関する基礎的研究
宮城島丈司 木造面格子壁を用いた簡易耐震シェルターの構造設計手法に関する研究
靱性型面格子壁の構造性能と構造設計手法の提案
安田 真弓 HP 張力膜をハイブリッド化したテンセグリック・トラス（Type I）の基本的構造特性に関する研究
三宅 由祐 ハイブリッド・ガラス・ビームの構造部材への適用性に関する研究
プレストレスを利用したガラス構造の提案と実用性の検証

白井伸明教授 ————— 建築学専攻
伊藤 唯 ファイバー解析に基づく既存 RC 建造物の損傷評価に関する研究
堀川 真之 収縮・クリープを考慮した FEM による RC 柱の長期・短期性能評価と構造物への応用
北野 由樹 腰壁・袖壁を有する RC 造骨組構造の耐震診断結果の検証

中田善久准教授 ————— 建築学専攻

吉田 雪乃 分割添加により高性能 AE 減水剤を低減させた高強度・高流動コンクリートの基礎的性質に関する研究

半貫敏夫教授 ————— 建築学専攻

清水 俊介 高応力脆性破壊を再現した引張試験データに基づく鋼構造柱梁接合部の脆性破壊防止方法

古橋 剛准教授 ————— 建築学専攻

油野 球子 D.M. (ダイナミック・マス) を用いた連結制震システムに関する基礎的研究

渡邊 直子 塑性率制御法による D.M. 同調システムへの適用

小山 翔 ランダム波入力による D.M. モード制御法の設計法に関する研究

荒井 恵美 地震観測による制震構造物の性能評価に関する研究

中澤 史成 D.M. モード制御による鉄塔構造物の制震改修に関する研究

李 禧珠 DM 同調システムを用いた構造物の風外力応答制御に関する基礎的研究

渡辺 直輝 免震構造物の動的設計に関する基礎的研究 応答性能図表を用いた簡易設計法

中村 文彦 複素固有値解析を用いた制震構造物の設計法に関する基礎的研究

今村雅樹教授 ————— 建築学専攻

菅野マリコ 上野の森国立建築博物館構想

建築資料のアーカイブと情報発信を核とする建築教育および活動拠点としての博物館の設計

李 欧 大家族主義による新しい集住体の提案 中国北京通州区における集合住宅の設計

小林 加奈 静岡県駿河区多世代コミュニティ施設の計画 健康促進機能を核とした複合型地域施設の設計

佐藤 久子 札幌市中心市街地における北海道立図書館分館計画 情報学習拠点としての都市型複合図書館の設計

下大園将人 別府ウェルネスセンター構想 衰退化する温泉都市における療養拠点施設の設計

夏目 将平 埼玉県深谷市における日本煉瓦工場再生計画 歴史的遺産を活用した煉瓦史料館の設計

松田 佳那 世田谷区地域複合型こども施設の提案 都市部における子育て環境の再構築

横河 健教授 ————— 建築学専攻

荒井 亮蔵 池袋 3 丁目における、市街地更新と連動した集合住宅群の設計

池田 真人 横浜におけるメディア芸術美術館と大学のコンプレックスの設計 教育・創造施設としての美術館の提案

太田 佳織 東京メトロ東西線神楽坂駅再生計画 観光地化する神楽坂の文化における駅再生と公共文化機能の在り方

的場 弘之 伊勢神宮外宮参道構想 奥性からみる空間領域形式を用いた外宮参道沿道空間の構築及び神宮参拝文化施設群の計画

渡邊 貴通 喜多方市小田付地区における街並み再生計画

観光地における地域資源を活かした街づくり計画の提案及び住宅群の設計

横河 健教授・山崎誠子助教 ————— 建築学専攻

小和田俊也 裁判員制度導入に伴う地方裁判所の設計 学習機能を複合した地域活動拠点として機能する千葉地方裁判所

佐藤光彦准教授 ————— 建築学専攻

袁 宇昆 町工場再生による地域活性化計画 墨田区における新しい産業観光拠点施設の設計

遠藤 孝弘 豊洲音楽都市 江東区豊洲再開発におけるポップミュージックセンターの設計

大野 佑太 押上通り沿道密集市街地更新計画 道路整備・拡幅に伴う沿道の高容積を利用した敷地の共同化と段階的建替え

楠 友介 横浜文化体育館移転に伴う関内駅前再開発計画 スポーツ施設を主体とした複合建築の設計

久保木亮太 銭湯を活用した地域福祉拠点計画 足立区千住地区における銭湯の再生と高齢者複合施設の設計

桜井 悠一 札幌メディアフォーラム 創造都市さっぽろの拠点となる道立図書館を核とした複合文化施設の設計

瀬崎 康平 立川文化核都市構想 都市軸沿道地域における複合文化施設の設計

佐藤光彦准教授・山中新太郎助教 ————— 建築学専攻

檜垣 幸志 富士山五合目再生 文化的景観形成を目指した観光拠点施設の設計

松本 晃一 農業と建築の融合を目指した次世代型農業研究学習センターの提案

森實 幸子 住まい・まちづくりの支援制度に関する研究 助成財団による支援を対象として

本杉省三教授 建築学専攻

岩木 友佑 新宿区西大久保公務員宿舍跡地における都市型集合住宅の計画
林 高平 浜田山コミュニティプラザ 高齢者の社会参加を促す商店・福祉の複合
真砂 遥 商業建築のファサードにおける印象評価に関する研究

本杉省三教授・佐藤慎也助教 建築学専攻

佐脇三乃里 創造活動を行う施設の運営と利用に関する研究
原 友里恵 学校建築をコンバージョンしたアートセンターの展示空間に関する研究 3331 Arts Chiyoda を事例として
藤井さゆり 劇場外演劇における上演空間の研究

大川三雄教授 建築学専攻

中村 深至 山本学治の評論活動にみる「建築技術」観の特徴とその史的評価 論考の系譜と建築作品批評の内容分析を通して
飯田智由紀 著作「作庭意匠」にみる建築家・大江新太郎の庭園理念
秋沢 吉洋 吉田鉄郎の作品にみる窓の配置とその形態的特徴に関する研究
榎村 嘉仁 住宅建設会社アイクラー・ホームズの住宅及び住宅地計画の手法とその特徴
L.A. モダニズムの潮流の中での生産活動
木川 正也 日本近代建築思想史における「昭和の様式論争」の時代背景とその意義
福永 藍 都市環境の視点からみた建築家谷口吉郎の建築論と建築作品に関する考察

根上彰生教授 建築学専攻

金 在廷 韓国の都市再整備制度「結合開発制度」に関する研究 韓国江陵市の旧都心地域への適用について

根上彰生教授・川島和彦専任講師 建築学専攻

高瀬 治郎 まちづくり条例にもとづく住民主体の住環境形成に関する研究 横浜市を事例として

宇杉和夫准教授 建築学専攻

猿渡 俊 まちづくりにおける地域継承空間遺産の活用とその担い手に関する研究 地域事例の地方行政者による評価
千島 孝弘 月島居住地の環境形成とその持続性についての研究 路地と隙間による空間形成

三橋博巳教授 不動産科学専攻

赤澤加奈子 静岡県熱海市における分譲別荘地開発の変遷に関する研究
浅沼 大 地方自治体の建築物環境配慮評価制度が建築環境性能に与える効果に関する研究
吉元 裕樹 建設廃棄物のリサイクル化による再生材のエネルギー消費量に関する研究 東京都を対象として

根上彰生教授 不動産科学専攻

岩崎 洋太 日本のスキーリゾートにおける活性化方策に関する研究 長野白馬村のスキーリゾートを対象として

宇於嶋勝也准教授 不動産科学専攻

内田 裕紀 建築物の高さ規制に関する研究 東京都の絶対高さ型高度地区の導入実態と緩和規定に着目して
海老原敬宏 市街地再開発事業の周辺環境への影響に関する研究 東京都港区における3事例をもとに

根上彰生教授・川島和彦専任講師 不動産科学専攻

大岡亜沙美 東京圏における既存建物を活用した高齢者専用賃貸住宅の供給に関する研究
中野 直樹 歴史的建造物の活用におけるまちづくり支援組織の役割に関する研究
再生施設活用事業のマネジメント方策を中心に
力武 俊輔 街路空間を利用した商業活動の活性化に関する研究

平成22年度 卒業研究・設計 タイトル一覧

学部

池田耕一教授

伊藤 勝・田島 光・藤井 喬史

オフィスビルの室内環境の勤務者に及ぼす影響に関する調査研究

大谷 鮎美・落合貴洋湖

オフィス、会議室、ホテルからなる超高層複合施設の給水・給湯水消費量に関する研究

熊田 和彰

地下街における空気環境の実態に関する研究

小林 誠彦

洪水災害被災後の居住環境問題に関する調査研究

坂巻 卓

気化式加湿による菌、臭気対策に関する研究

高野 大地

建築物の用途別維持管理実態に関する調査研究

富田 京里

建築材料の室内湿度制御能力の評価方法に関する研究

大関 康裕

建築材料からの化学物質放散性状に関する研究



井上勝夫教授・富田隆太助教

秋山 慶太・齊藤 友紀

都市の街並み景観に関する実験的研究

五十嵐 匠・長谷川博基・宮井明希子

木質系床構造における重量床衝撃音に関する研究

今井 彩香・監物 正輝・森本 千早

住宅における室用途別床仕上げ材に関する検討

植村 裕樹・内海 桂・岸 歩美

建築空間における左右の違いが人間の行動のしやすさに与える影響

梅崎 美緒・神谷 剛

高齢者の聴覚特性と住まいの音環境に関する研究

生川 礼人・藤村 圭太・藁科 夢

中国における集合住宅の音環境性能意識調査及び性能実態調査

黒宮 奈央・沼 保志・藤井 智大

鉛直振動を対象とした床の居住性能評価方法に関する研究

近 茉莉子・中島 英明・森 孔明

建築環境工学分野における現状分析と考察

中川 千尋・室 裕希・山田 剛平

乾式二重床における重量床衝撃音対策に関する検討

中山 萌・宮之前陽太・牛田 陽香

保育園の音環境に関する実態調査



橋本 修准教授

遠藤 隼・田川 茉侖・藤波 亮太

歩行の手がかりとなる照明の設置条件に関する実験的検討

公共空間におけるロービジョン者のための照明計画に関する研究

尾池 智史

残響音場における最適発声レートについての主観的及び物理的検討

落合 康子・赤羽 美紀

駅構内におけるロービジョン者のための「場所」を示すサインの在り方

佐藤 光・須見 勇太・鶴田恵里香・中島 祥太

歩行移動時の視覚情報による「誘目」と室内環境要因との関係性に関する基礎的研究

博物館における調査・分析

高野 一成・土屋 沙織

盲導鈴の方向定位におけるインパルス応答を用いた簡易的物理評価法の検討



蜂巣浩生専任講師

大原 杏太・久保埜賢太・川上 健太・今西 理恵

継続的な運動トレーニングが脊髄損傷者の温熱環境適応能力に及ぼす影響
運動トレーニング開始後 30 ヶ月間の調査結果について

近藤望太郎・佐藤 康晴・細井 辰也

実験動物施設の環境制御に関する文献調査 ILAR ガイド改訂の方向性について

山口 裕士・石野 史子・佐藤 降一

実験動物施設の環境改善のためのエンリッチメント器材開発 環境に関する課題と器材開発に向けた準備について

横沢 博人

ある高位頸髄損傷者の生活記録の分析 他動的運動訓練と身体状況の変化との関連について



安達俊夫教授・山田雅一助教

浅賀 雄也 洪積砂のセメンテーション効果の再現法に関する研究

石井 卓也 せん断剛性の低位化を考慮した砂の応力一ひずみ関係

小川 祐樹 FEM 解析による山留め挙動の評価に関する研究 側圧および掘削底面の排土荷重の検討

梶 淳一 洪積砂の強度定数の評価法に関する研究 地盤調査資料に基づく検討

川添慎太郎 ベンダーエレメントによる砂のせん断剛性の評価 せん断過程における体積変化特性に関する検討

北村 康太・佐藤 竜馬

エネルギーの釣合いに基づく液状化地盤の損傷評価に関する実験的研究 液状化に伴う沈下予測法の適応性の検討

清水 健治 安定処理土の弾性波速度測定システムの開発 その 1. 粘性土改良土の弾性波測定

轟 傳佳 液状化現象の再現装置の開発

廿楽 陽太 エネルギーの釣合いに基づく液状化地盤の損傷評価に関する研究 実地震における沈下予測

新山 龍・星野 公男

地形・地盤条件に着目した事業継続性の評価に関する研究

半田雄一郎 地盤改良を適用したバイルド・ラフト基礎に関する研究 FEM 解析による沈下量の低減に関する検討

福良 達也 安定処理土の弾性波速度測定システムの開発 その 2. 砂質土改良土の弾性波測定

井上 信裕 安定処理土の弾性波速度測定システムの開発 その 3. 弾性係数の異方性

大矢 健太 粘性土改良土のねじりせん断強度の評価に関する研究

田中 太一 粘性土改良土の一軸圧縮強度の評価方法に関する研究



岡田 章教授・宮里直也助教

赤木 貴子 発泡アルミニウムを用いた曲面構造に関する基礎的研究

荒井 早苗 アクリル補剛した木造格子壁の耐力壁への適用性に関する研究

榎 紀佳 負圧を利用したフレーム膜構造の基礎的研究

更家 遼 竹編みシェルの構造特性に関する基礎的研究

大山 一樹 開口を有する木質積層耐力壁に関する基礎的研究 開口パターンによる影響

小笠原康介 菱形凹凸面を有する曲面空間に関する基礎的研究 折り紙を基にした展開式シェルユニットの提案

小澤 恭平 板ガラスを軸力抵抗部材に使用したガラスビームの研究

木村 梨絵 ガラスチューブの構造部材としての適用性について
支点リングを用いた 2 重ガラスチューブの提案と基本構造性能の検証

栗栖 寛弥 可動式螺旋トラスに関する基礎的研究

栗原 晶子 接合部にケーブルを用いたパネルドームの基本構造特性に関する研究

佐藤 章 接着接合によるハイブリッド・ガラスビームの実験的研究

中野 佑香 ウッドプラスチックの建築構造部材への適用に関する基礎的研究

中村 光 テンセグリック・タワーの力学性状に関する基礎的研究 ねじれ補剛方法に関する検討

野崎浩太郎 ポリカーボネートの建築構造部材への適用性に関する基礎的研究 材料特性を活かした適用方法の検討

野本 大 展開型プリベンディング式ジオデシックドームの施工性向上に関する研究

細山 輝明 木造持送りアーチ構造の屋根架構に関する基礎的研究



松井 良介	ディンプルドームのフレームモデルにおけるテンション材付加が及ぼす影響に関する基礎的研究
松本 良太	ばねハンガー式張力膜構造の適用性に関する実験的研究
宮崎 智弘	木造面格子における相欠接合部の間隙が及ぼす影響に関する研究
宮田 修平	骨組チューブ膜を用いたテンポラリスぺースに関する基礎的研究
阿部 智己	線材連結型曲面壁がもたらすエネルギー吸収に関する基礎的研究
小倉 正寛	付け替え式木造橋について 建築技術が未発達国の国のためにできること

白井伸明教授・田嶋和樹助教

秋山 錠太	収縮・クリープが普通強度 RC 柱の水平変形性能に与える影響 その 1 収縮・クリープ解析モデルの構築
秋山 洋輔	収縮・クリープが普通強度 RC 柱の水平変形性能に与える影響 その 2 収縮・クリープを考慮した RC 柱の短期解析モデルの構築
平山 貴也	そで壁付柱のせん断終局強度算出方法に関する文献調査
松田 卓也	せん断破壊する RC 柱の耐震性能評価に関する問題点 その 1 RC 造柱の破壊形式の分類
林田 一希	せん断破壊する RC 柱の耐震性能評価に関する問題点 その 2 局所損傷に基づく RC 造柱の全体損傷評価
野本 雄大	せん断破壊する RC 柱の耐震性能評価に関する問題点 その 3 ファイバーモデルを用いた解析的検討
小林 仁	全体曲げ破壊する連層鉄骨ブレース補強骨組の耐震性能評価



中田善久准教授

石田 祐未	木目を転写させたコンクリート表面の仕上がり状態に関する研究
加藤 祐士	吸水性状に基づくコンクリートの品質評価に関する研究 初期水分保有率の違いが吸水性状に及ぼす影響
藏田 佳祐	コンクリート型枠用合板の転用がコンクリート表面の仕上がり状態に及ぼす影響
宮部 義章	練混ぜにおけるコンクリート材料の分割投入が高強度コンクリートの品質に及ぼす影響
杉山 正和	鉄筋の配筋位置が金属拡張系あと施工アンカーの引抜き耐力に及ぼす影響



半貫敏夫教授

小貫 雄太・鈴木 寿英	ウェブ幅厚比の大きな H 形鋼梁の貫通孔補強方法に関する研究 その 1 梁の曲げ実験とその考察
千葉 光平	ウェブ幅厚比の大きな H 形鋼梁の貫通孔補強方法に関する研究 その 2 有限要素法解析による検討
佐藤 翔・横山 竜大	新設計画中の韓国南極観測基地建物の吹きだまり予測に関する研究 建物形状及び密集配置が建物周囲の吹きだまりに与える影響
竹ノ谷幸宏	鋼構造筋違材の座屈挙動がエネルギー吸収効率に及ぼす影響 その 1 実験計画
田村 孝太	鋼構造筋違材の座屈挙動がエネルギー吸収効率に及ぼす影響 その 2 応答解析
水谷 岳広・新井 優希	V ノッチ引張試験を用いた鋼部材の脆性破壊防止に関する研究 延性亀裂深さと温度の関係による脆性破壊クライテリアの検討
村松 義弘・古林友佳莉	アジア貧困地域における竹を利用した住宅用建材の開発 竹の力学的特性及び構造体実験
吉富 彩希	模型形状による吹き溜まり性状の変化に関する研究 その 1 吹雪風洞実験
矢口あみか	模型形状による吹き溜まり性状の変化に関する研究 その 2 煙風洞実験と吹雪風洞実験の比較
河合 剛	模型形状による吹き溜まり性状の変化に関する研究 その 3 数値流体解析と煙風洞実験の比較



古橋 剛准教授・秦 一平助教

荻野 瑛	D.M. 付加型 2 棟連結制震システムに関する基礎的研究 その 1 MC 型の検討
押山 育未	D.M. 付加型 2 棟連結制震システムに関する基礎的研究 その 2 MC-K 型の検討と振動実験
増井 智彰	擬似モード制御を利用した BMD システムに関する基礎的研究 その 1 擬似モード制御手法



稀代 康平	擬似モード制御を利用した BMD システムに関する基礎的研究 その2 BMD システムの最適設計法
渡辺 一成	擬似モード制御を利用した BMD システムに関する基礎的研究 その3 8 層せん断型モデル試験体による振動実験
浅井 剛	パンタグラフ式 D.M. 同調システムを用いた鉄塔制震構造物の振動実験

今村雅樹教授

〈卒業設計〉

岡根 孝純	放浪するオブジェ 文化都市六本木における孵化装置としての美術館の提案
景山 悠	新宿樹林 新宿歌舞伎町多国籍街のコアとしての建築
清水 良輔	node 池袋の中の小さな都市
鈴木 大介	1000m のエンガワ 北千住のプラットホーム
造士 航	Place for Refugee 高田馬場における難民のための建築
高橋 道成	Lost 下北沢の路地空間性によるアイデンティティの維持
田部 直美	リンク 仮想インターネット環境での新たなショッピング空間の提案
福井 茜	旧足利燃糸工場のコンバージョン計画 幼児保育の拠点としての複合施設の設計
藤井しづか	おかず横丁再生計画 コミュニティスペースとしての商店街の再構築
丸山 義貴	東京の群像 外神田における職住型集合住宅の提案
三角奈津紀	光庭 光とスケールの操作を用いた外部性をもつ集住体の提案
南 雅博	実の線／虚の面 千葉ニュータウン中央駅前集合住宅建設計画
宮澤 和貴	Theatrical shopping シアターと商業のコンプレックスの提案
土肥 香織	神保町ビブリオテーキ _ 本を手にする人、本を手放す人



横河 健教授

〈卒業設計〉

中井 翔也	欲望のプラットホーム
福島 渚	アサイラムかまたはヘトロトピア
羽部 竜斗	ほつれる境界をもつ建築
本山 哲生	家の遊牧民
鈴木 章弘	Parasite Buildings- 中小ビルの連結による神田 再開発のオルタナティブの提案
蛭原 弘貴	工業化住宅という HENTAI 住宅
高間 友明	Rushing Line 東武浅草駅及び百貨店松屋の改修計画
重野 陽祐	未知のおもむくま 現代における児童館施設の再考
小口 直樹	新しい佐竹商店街



山崎誠子助教

石垣 智史・泉山 嵩之

全国、国分寺の直売所の現状の研究 建屋・陳列方法の実態研究

夏目 南・針谷 未花

国分寺市の農地景観に関する研究 日常動線から浮かび上がる農地景観

宗田健太郎・西川新之助

国分寺市における直売所の利用実態研究 新設直売所に関する一考察

岡崎 優・佐々木嘉理美

浦賀港周辺まちづくりの一考察 浦賀造船工場のリノベーションを通して

穴倉 敦

公共図書館の緑化に関する研究 市川・船橋・千葉と全国の事例を通して

杉山 真

商業施設における子供の遊び場について

武居 里美

地下街の緑化についての研究

原大 資

ショッピングセンターの緑地デザインの研究

若園 基記

アウトレットモールにおける屋外空間の緑地と利用状況についての研究



佐藤光彦准教授



〈卒業設計〉

- | | |
|-------|------------------------------------|
| 石原 愛美 | わがスーパースターの家 |
| 内山 晃一 | 本＋異文化＋学生＝新宿図書館 |
| 塩田 一弥 | 温故知新 |
| 柴田俊太郎 | void の流動 活動を引き上げる void 都市へ発信する商業施設 |
| 渋谷 舞 | 亡き人たちによるうつろい |
| 須田 竜大 | DAIKANYAMA entrance 駅は街と共に変化する |
| 太細 雄介 | 柱は建築空間にリズムを与え、場を定義づける |
| 鳥居 智之 | 歌舞伎町サナトリウム |
| 藤井 玄徳 | 豊かな均質 ワンルームオフィスにおける多様な内部空間のあり方について |
| 村山 寛子 | Ginzarou |
| 山田 明加 | vessel 都市と海をつなぐ |
| 竹内 佑希 | ナナメグロ |

山中新太郎助教



- | | |
|-------|--------------------------------------|
| 藤原 拓 | ルイス・バラガンのねらい バラガン自邸にみる光を用いた空間演出手法の研究 |
| 谷川 翔也 | バロック建築の視覚効果に関する研究 |
| 中川 陽平 | 歩行者の視認性に基づく表参道の建築ファサードに関する研究 |
| 永田 健二 | サークル施設のアクティビティと空間利用 |
- 〈卒業設計〉
- | | |
|-------|--------------------------------|
| 森 一晃 | カプキテフビルディングは傾く |
| 黒田麻友美 | みちびくかべ住宅と商業、二つの環境を繋ぐ複合型集合住宅の提案 |
| 酒井 誠 | fanfare 都市の空白が祝祭に満ちる時 |
| 中村 成美 | complex dormitory |
| 長島早枝子 | 川越街区再生計画 |
| 山 達郎 | 大久保のスキマ 立体集落による多国籍 Complex の提案 |

本杉省三教授



- | | |
|-------|--|
| 小室 道太 | 病院における浴室の利用頻度に関する研究 各患者の違いに注目して |
| 佐藤 龍治 | 商店街における賑わいの構成要素 世田谷区の3商店街を対象として |
| 須貝 里美 | 公開ミュージアムショップの実態と利用者の評価に関する研究
東京都内48館の実態と東京都現代美術館利用者アンケートによる考察 |
| 鈴木 宏彰 | 美術館における休憩スペースの利用と評価に関する研究 |
| 竹内 貴重 | 喫煙所に関する研究 新宿駅東南口を事例にして |
| 土居紗貴子 | 青少年の居場所の選択要因に関する研究 中高大学生を対象としたアンケート調査から |
| 中村 まり | ライブハウスの空間構成についての研究 都内13施設の実地及び観客・出演者アンケート調査から |
| 海老澤珠里 | 高齢者複合施設に関する研究 高齢者と児童との複合施設にみられる交流の実態 |
| 柄 孝行 | 超高層マンションにおける公開空地の利用実態に関する研究 港区の総合設計制度を参考にして |
| 松崎 裕太 | 小学校クラスルームにおける児童と教師の利用評価について
片廊下型小学校とオープンスペース型小学校の比較・分析 |

佐藤慎也助教



- | | |
|-------|-------------------------------------|
| 伊川佳菜子 | コンバージョンされた演劇施設に関する研究 用途変更のプロセスを通して |
| 鎌倉 陵 | マンガ作品の展示に関する研究 マンガ施設・マンガ展の現状と傾向を通して |
| 坂上 翔子 | 「住み開き」の活動と場に関する研究 |

菅野菜実子	地下鉄駅構内における追加サインに関する研究	配置空間と伝達内容の関係を通して
高野 大地	博物館におけるハンズ・オン展示に関する研究	科学博物館の追跡行動調査を通して
橋本 慎一	イサム・ノグチの庭園作品に関する研究	
堀内 里菜	展示室における外部の見える開口部の研究	1990 年以降に建設された美術館を通して
馬淵かなみ	公共空間におけるアート作品展示に関する研究	再開発事業により設置されたパブリックアートを通して
吉田智恵美	ヘルツォーク&ド・ムロンの表層デザインに関する研究	テキスタイルを支えるディテールを中心に

八藤後 猛准教授



會田 知美	博物館展示室空間の快適性に関する研究
伊佐 優子	まちの中の休憩スペースについて 移動する人々にとっての安心な環境とは
石川 祐	都市内公営住宅に住む高齢者の生活実態に関する研究 年を重ねても楽しんで生活していくために
今成 聰越・栗原 理奈	観光地における神社仏閣のアクセスに関する研究
菊地 優佳	子どもの住宅内事故及び建築・設備改善に関する研究
進藤 薫	子どもの危険回避能力と生まれ育った環境に関する 子どもを危険から守るために
鈴木 沙綾	波形手すり使いやすさと視覚的評価に関する研究
平 拓人	病院における面会行為・面会スペースに関する研究
田中陽一郎	チャイルドレジスタンスの定義、及び評価法の提案 ユニバーサルデザインとの関連から検討
野村優羽子	外出先の授乳スペースに関する研究 授乳室の個室の必要性和その具体案
筆脇ゆかり	高齢犬に対応する住宅の研究 高齢犬を対象としたペット共生住宅
松丘 大輔	住宅内空間に変化を与える段差に関する研究
村田梨花子	建築安全への意識に関する研究
杉田 康典	放課後の子ども地域利用施設の現状と課題に関する研究
田中木綿子	フィンランドに学ぶ人生を楽しむためのアクセシブルデザイン

渡辺富雄准教授



足利 剛央	団地内商業施設の現状 百草団地・高幡台団地を事例として
市川 広亮	保育士の視点から見た異世代交流の問題点について 保育園と高齢者福祉施設の積層型施設における幼老統合施設の建築計画について
漆谷 里沙	学芸員から見た公立美術館の裏方諸室に関する研究 首都圏に立地する 13 館の公立美術館を事例として
江口 愛子	建築家のデザインによる内部空間と服装の適合に関するイメージ調査 インテリアから見る建築と服装の関係性
大平 渉	近年の公共体育館における建築形態の傾向 雑誌「月刊体育施設 1995 年～2010 年」に掲載された施設を対象として
柴田 徹	児童館における児童の遊び行動の展開について 東京都市部における事例調査を通して
中島 和亮	図書館の児童室の構成とおはなし会について 公立図書館の建築計画に関する研究
三木 淳也	分譲住宅団地における居住者の住環境評価と定住意向について 神奈川県横浜市左近山団地（UR 都市機構）を事例として
渡邊 佑介	児童の遊び生活に対する考察 新潟市立巻北小学校の児童に対するアンケート調査を通して
木村 郷美	スポーツ施設の親子利用者からみたオープン化に関する研究
〈卒業設計〉	
五十嵐勇里	交通の分岐点における図書館の提案 デジタル技術の進歩による変化
小松 祐輝	市街地活性化のための旧富岡製糸場の保存・活用と観光拠点施設的设计
中西 孝貴	GRAPHIC PUBLIC グラフィックアート+パブリックスペース
榎本 智明	都市部における農業空間の計画

宇杉和夫准教授



岩重 光義	東北タイの地形及び地理的要因とクメール遺跡の形成についての研究
熊本 公弘	児童館と周辺の多年齢交流の空間研究 目黒区とさいたま市の比較を通して

小飼 亮介	台南の都市形成と廟・路地の空間形成の関係
中野 貴仁	台北の都市形成と路地の形成 台湾の都市形成における路地の比較研究
大杉 亮	韓国南部地域（慶尚南道）の地域景観構成と郷校の空間構成について
穴田 悠磨	さいたま新都心における展示施設に関する研究
網本 祐樹	香川県の山並み景観と高松周辺の街並みとの関係
大泉 泰明	西安の歴史的工業居住区における集合住宅の保全活用に関する研究
岡 裕輔	西安交通大学居住区における集合住宅の保全活用に関する研究

大川三雄教授・重枝 豊教授・小島陽子助手

〈大川研究室〉

飯島 実紗	『建築雑誌』と雑誌『住宅』にみる住宅改良運動の成果と発展 日本の住宅の展開
大塚 慎平	新経験主義とニュー・ブルータリズムにみるモダニズムの展開の動向とその評価 ハンス・スタントン中学校のイギリスにおける歴史的位置づけ
大畑亜梨沙	プラハにみる民族的世紀末建築の展開について ヨーロッパ諸国における運動との差異とその特性
奥田 優人	1950年代の建築論争にみる建築家と構造物家の関係性に関する一考察
岸 香里	1950年代の住宅を巡る論考と掲載作品にみる特徴 雑誌『新建築』を中心とする考察
澁谷 有樹	未来都市の実験場としての日本万国博覧会の研究 1960年代の未来都市像と万国博覧会
島矢 愛子	アドルフ・ロースの家具・インテリアにみられる特徴に関する考察 言説と建築作品における家具を通じて
須藤 洋右	第三帝国の建築形態の特質とその意味 A・シュペーアとP・L・トローストの建築から見る新古典主義
高木 智加	名古屋市内における近代建築の発展とその特徴に関する基礎的研究
高橋 龍太	昭和30—50年代の住宅政策と住宅産業の展開に関する研究 パイロットハウス技術考案競技とハウス55開発プロジェクトを事例として
中村 絵音	日本近代住宅史にみる「子供室」の理念と発展 雑誌『住宅』の掲載事例にみる「子供室」の位置づけとその変化
〈重枝研究室〉	
稲井 美帆	川越喜多院の伽藍の変遷に関する一考察 明治期の大堂移築に関する分析を中心として
中村林太郎	妙喜庵待庵における空間構成に関する一考察 南面側面からの採光計画にみる内部空間の構成について
黒井 幹雄	吉田神社斎場太元宮の基本構成に関する一考察 八角堂建築における太元宮の位置付けについて
黄 元園	栄螺堂の二重螺旋スロープと平面構成に関する一考察 動線計画と像の配置による分析を中心として
浅井 邦彦	大工棟梁・野村貞夫所有の大工道具構成に関する一考察 実測調査による鑿の種類と寸法構成に関する分析を中心にして
安西 千波	金閣寺舍利殿と銀閣寺観音殿の創建時の建築構成に関する一考察 復元研究を元にした2棟の関係について

三橋博巳教授

朝妻 仁哉	戸建住宅購入における情報提供の在り方 今後の住宅市場に必要なサービスは何か
天ヶ谷 翼	大阪市浪速区個室ビデオ店火災からみる防災安全対策の研究
石井 香苗	首都直下地震における千代田区の防災対策の研究 江戸時代の災害と防災対策に着目して
岩崎 俊典	指定管理者制度の運用に関する研究 埼玉県の実例について
小野 綾香	龍ヶ崎市の小貝川近辺における防災対策について 昭和56年小貝川決壊を教訓にして
加藤 遼吾	不動産リースについて リース会計基準並びに税制改正における影響・効果
河住 侑輝	飛鳥時代の税制度 租庸調制について
瀧野 和也	固定資産税に関する研究 土地の評価を争点とする判例を中心に
森山 賢一	コンパクトシティ政策の導入とその影響に関する研究 青森市を対象として
山本 和希	自然災害発生時における災害弱者の安全確保 災害時要援護者の避難支援について
吉野 和也	太陽光発電システムの普及状況に関する研究 関東地方の住宅について
滝沢 友香	住宅履歴情報におけるわが国と外国の比較 米国の履歴情報について
橋本 侑佳	被災時における災害弱者の避難経路と防災計画について 江東区大島地区を対象として
李 雨性	日本の高齢者住居政策に関する研究 日本の高齢化対策に学び、今後韓国の対応の方向性を探る



根上彰生教授



岡田 早香・玉橋 元・平田知明輝・三原 祐也

市街地再開発事業で建設された大型商業施設の運営に関する研究

川崎 伸洋・高星 友希

世界遺産・姫路城におけるバッファゾーンに関する研究

坂本 健次 神田神保町古書店街の形成過程に関する研究

谷津 貴央・山田 紘二

世界遺産姫路城周辺における歴史的町並み保存に関する研究

和泉 光春・小林 秀行・坂口 明久

夜間の商店街における「にぎわい」に関する 行動誘発要素と構成要素に着目して

宇於嶋勝也准教授



齋藤 寿朗・下林 高史

地域防災計画の実態に関する研究 防災備蓄倉庫に着目して

鈴木 恒道・鈴木 竜一

商店街の組織体制と運営実態に関する研究 武蔵小山商店街 PALM に着目して

善波正太郎・吉野 沙季・塙 めぐみ

蔵の活用を契機としたまちづくり過程に関する研究 土浦市と行田市に着目して

高橋 侑平・只野 佑磨・服部 一翔

エキナカ施設の開業が駅周辺商店街に及ぼす影響に関する研究

白樫 大治

東京都における行政主導の民設駐車場・駐輪場の整備に関する研究

川島和彦専任講師



青柳 友紀・大場 雄太・真部 尚美

中山間地域における廃校の体験交流施設への活用実態と変遷に関する研究

その1. 八戸市青葉湖展望交流施設「山の楽校」の取り組みの変遷

その2. 地域住民の「山の楽校」への参加実態の分析

その3. 地域外からの利用者の「山の楽校」への参加実態の分析

池田 智・小谷野瑞紀・塚崎 桂介

歴史的建造物の短期活用による持続的活用への誘導方策に関する研究

その1. 半田市における短期活用を契機とした意識向上の実態

その2. 檀原市における持続的活用の成立を促す取り組みの分析

その3. 多様な持続的活用を促す取り組みの検討

宮里 翔悟・三背 康平・織戸 歩実

重要伝統的建造物群保存地区における建築物等の現状変更に関する研究

その1. 現状変更に関する基準の改正の全国的動向の分析

その2. 塩尻市奈良井地区の行政・設計士・所有者による連携の実態

その3. 奈良井地区における連携が町並み保存に及ぼす影響

竹内 博紀・福島 史哉

地方都市におけるまちなか居住推進のための空き家情報提供制度に関する研究

その1. 制度の特徴と運用上の課題の分析

その2. 空き家情報収集方法および移住促進方策の検討

吉野 祐太

長野県小布施町における拠点景観整備事業を契機とした景観形成の変遷に関する研究

横内憲久教授



石山 拓実・武井 洋介

都市における水域の不動産的価値に関する研究

(その1) 港湾区域における新型案件の水域占用料について

(その2) 不動産鑑定評価を用いた検証について

新宅 将志・伊藤 貴弘

都心型漁業を核としたまちづくりのあり方に関する研究

(その1) 海老取川の利用形態の把握

(その2) 行政資料を通じてみた海老取川地域の整備方針の把握

三浦 勇・平岡 昌樹・楊 芸

かつての海の文化性からみた今後のまちづくり方針の提案
(その1) 明治期から昭和初期の大田区臨海部の海の文化性の把握
(その2) ワークショップからみた小学生の海の位置づけ

佐藤 育美・永井 浩貴

景観まちづくりにおける景観教育のあり方に関する研究
(その1) 「景観まちづくり学習」における活動内容
(その2) 「景観まちづくり学習」における協働経緯および協働者

清水 裕章・石崎 駿平

地方都市における「減築」を活用した賑わい創出に関する研究
(その1) 「減築」の類似事例における「整備形態」および「整備方針」
(その2) 「減築」の類似事例における「空間整備の経緯」

羽入敏樹(短大)准教授・星 和磨(短大)助手

沖山 晃大 平滑化減衰エネルギー比を用いた室内音場における拡散度の評価法に関する検討
中島 惇 平滑化減衰エネルギー比を用いた室内音場におけるフラッターエコーの評価法に関する検討
木住野裕子 室内空間におけるパーティション遮音効果の計算ツールの開発
高野 美央 ダミーヘッドマイクによる室内音場の評価法
その1 両耳応答の差分に基づく両耳間相関度に代わる評価指標の検討
愛澤 絵理 ダミーヘッドマイクによる室内音場の評価法
その2 両耳間時間差と両耳間レベル差に着目したみかけの音源の幅(ASW)の評価法の検討



吉野泰子(短大)教授

桜井 透 超長期住宅先導的モデル事業対象マンションにおける居住環境調査 その1. 屋内物理量測定結果
中村 令 超長期住宅先導的モデル事業対象マンションにおける居住環境調査 その2. 屋外物理量測定結果
山口 雄大 超長期住宅先導的モデル事業対象マンションにおける居住環境調査 その3. アンケート調査結果
奈良 拓也・小田 雄太 重要文化財に対するバッファゾーン設定に関する環境工学的支援
銅御殿におけるビル風被害の検討と保護に向けた提案



黒木二三夫(短大)教授

太田 陽介 雪氷構造物に関する文献的研究
北村 雅俊 初学者のためのヴィジュアル化した力学テキストの制作



下村幸男(短大)教授・酒匂教明(短大)専任講師

三鍋 和哉 常時微動に基づくRC造小学校の耐震補修前後の動特性の変動に関する研究
その1 対象建物および測定法の概要とサイト地盤の動特性の推定
山本 尚輝 常時微動に基づくRC造小学校の耐震補修前後の動特性の変動に関する研究
その2 耐震補修前後の常時微動測定に基づいた検討
藤川 智樹 産業廃棄物および建設副産物を用いた地盤免震技術に関する研究
減衰ブロック材の繰返し変形および強度の特性
石田 惇矢 摩擦音に着目した土質判定を可能にするスウェーデン式サウンディング試験に関する研究
その1 測定法を確立するための予備実験
藤田 智貴 摩擦音に着目した土質判定を可能にするスウェーデン式サウンディング試験に関する研究
その2 模型地盤を使用した実験



小石川正男(短大)教授・田所辰之助(短大)准教授・矢代眞己(短大)准教授

手塚 陽介 廃校後の校舎・土地の活用に関する調査・研究
東京都特別区における公立小中学校を対象として



平成22年度 短期大学部 卒業生一覧

相川ゆかり	窪田 明奈	轟 正太	向井 洸太
足立 光平	久保田結衣	中島 千尋	山田 夏衣
在田 大樹	小池幸太郎	中村 翼	山本 真子
栗野 裕希	小林 彩香	長岡 茜	遊佐 未森
池田 宗平	小林 正明	長瀬由布子	弓場 将
石橋 雄馬	小林 将也	橋本 尋武	吉田 悠真
梅沢 慎也	齋藤 真理	林 俊明	梅田 淳
大友 亮子	佐藤 泰永	平塚 康一	岸本真里花
小倉 名紗	塩澤友梨菜	廣崎 実	小林頭太郎
小柳友里子	杉山 大樹	藤川 隆明	鈴木美里亜
金子真由美	高岡 龍司	松丸 健治	富田 聡
上東野 凌	田中 勇治	松本 和也	
清田紘志郎	鶴崎 敬志	三山 純平	

研究室所在一覧

駿河台校舎

5号館

3 F 建築学科コンピュータ演習室 (534室)
 4 F 建築教室事務室 (栗原・矢萩 542室)
 5 F 設計講師室 (西脇・山田(明) 553室)
 6 F 対震構造研究室
 (古橋 564A室・秦 564B室)
 地盤基礎研究室
 (安達 565A室・山田(雅) 565B室)
 材料施工研究室 (中田 566A室)
 RC構造研究室
 (白井 567A室・田嶋 567B室)
 構造研究室 (金田・廣石 568A室)
 構造研究室 (石鍋 568B室)
 空間構造デザイン研究室
 (岡田 569B室・宮里 569A室)
 7 F 建築史・建築論研究室 (大川 576A室・
 重枝 575A室・小島 575B室)
 環境研究室 (王 577A室)
 建築環境・設備研究室 (池田 577B室)
 蜂巣研究室 (蜂巣 578A室)

環境・音響工学研究室 橋本研究室

(橋本 578B室)
 建築音響研究室
 (井上 579B室・富田 579A室)
 8 F 宇杉研究室 (宇杉 584A室)
 建築設計系研究室 (山本 584B室)
 八藤後研究室 (八藤後 585A室)
 渡辺研究室 (渡辺 585B室)
 本杉研究室 (本杉 586A室)
 佐藤慎也研究室 (佐藤(慎) 586B室)
 山崎研究室 (山崎 587A室)
 横河研究室 (横河 587B室)
 佐藤光彦研究室 (佐藤(光) 588A室)
 山中研究室 (山中 588B室)
 今村研究室 (今村 589B室)
 9 F 都市計画研究室 (根上 595A室・
 宇於崎 595B室・川島 594B室)
 防災科学研究室 (三橋 596A室)
 ウォーターフロント計画研究室
 (横内 596B室)

船橋校舎

5号館

4 F 吉野研究室 (吉野 545A室)
 田所研究室 (田所 545B室)
 矢代研究室 (矢代 546A室)
 小石川研究室 (小石川・高田 546B室)

6号館

2 F 羽入研究室 (羽入・星 622A室)

9号館

1 F (短)建設事務室 (保坂 915室)
 2 F 黒木研究室 (黒木 921B室)
 酒匂研究室 (酒匂 926A室)
 佐藤研究室 (佐藤 926B室)
 下村研究室 (下村 926C室)

新任教員紹介

金田勝徳 先生

(特任教授・構造設計)



略歴

1968年 日本大学理工学部建築学科卒(田治見研究室)
1968～86年 (株)石本建築事務所
1986～88年 ティ・アイ・エス エンド パートナース
1988年～現在 (株)構造計画プラス・ワン代表
2006～11年 芝浦工業大学特任教授

私は大学卒業以来 43 年のうち、途中実務を離れた 3 年
間を除く 40 年間は、建築構造設計を仕事としてきました。
その間忘れてしまったことが多い中で確かなことは、た
くさんの仕事を通して積んできた多くの方たちとの協働
と経験です。この協働と経験で得られたものが、私にとっ
ての財産です。職場で私の息子年代の人たちと仕事を共
にするときも、大学でもっと若い年代の学生たちと話を
するときも、この財産が頼りです。その時々思うこと
は、コンピュータ技術の目覚ましい発展です。手計算で
難しい計算式を解きながら設計をしていた頃に比べて今
は、誰でも当時より格段に優れた解析能力を持つことが
できます。構造設計者として解析力に上乘せすべき力は、
創造力、判断力、統合力などです。私の授業では、この
点を皆さまとともに勉強していきたいと考えています。

(かねだかつのり)

山本理顕 先生

(特任教授・建築設計)



略歴

1971年 東京藝術大学大学院美術研究科建築専攻修了
東京大学生産技術研究所 原研究室生
1973年 (株)山本理顕設計工場 設立
2007～11年 横浜国立大学大学院教授

1968 年に日大を卒業しました。学部時代は小林文次先
生の研究室に所属していました。歴史研です。当時、近
江先生が助教授で片桐先生が助手でした。建築史研究会
という学生サークルに所属していて、3 年生のときはそ
の部長をしました。かなりの歴史オタクだったと思いま
すね。といってもそれまでの建築史研究会の定番だった
社寺仏閣民家ではなくてラスキンそしてモリスのアーツ・
アンド・クラフト運動からコルビジエ、ミース、ヨーロッ
パの近代建築黎明期がぼくの興味の中心で卒業論文も近
代建築黎明期の「装飾論」でした。歴史研究は設計活動
と一緒にぼくの方のキャラクターだと思っています。
だから、今回も近現代史の授業をしたいとお願いしまし
た。19 世紀の終わりから第一次世界大戦期を挟んで 20
世紀初頭の社会的状況と一緒に考えたいと思います。大
学院生たちと一緒に思考し、そして一緒に作業ができる
ような授業の形式を考えています。 (やまもとりけん)

新任教員紹介

金田勝徳 先生

(特任教授・構造設計)



略歴

1968年 日本大学理工学部建築学科卒(田治見研究室)
1968～86年 (株)石本建築事務所
1986～88年 ティ・アイ・エス エンド パートナース
1988年～現在 (株)構造計画プラス・ワン代表
2006～11年 芝浦工業大学特任教授

私は大学卒業以来 43 年のうち、途中実務を離れた 3 年
間を除く 40 年間は、建築構造設計を仕事としてきました。
その間忘れてしまったことが多い中で確かなことは、た
くさんの仕事を通して積んできた多くの方たちとの協働
と経験です。この協働と経験で得られたものが、私にとっ
ての財産です。職場で私の息子年代の人たちと仕事を共
にするときも、大学でもっと若い年代の学生たちと話を
するときも、この財産が頼りです。その時々思うこと
は、コンピュータ技術の目覚ましい発展です。手計算で
難しい計算式を解きながら設計をしていた頃に比べて今
は、誰でも当時より格段に優れた解析能力を持つことが
できます。構造設計者として解析力に上乘せすべき力は、
創造力、判断力、統合力などです。私の授業では、この
点を皆さまとともに勉強していきたいと考えています。

(かねだかつのり)

山本理顕 先生

(特任教授・建築設計)



略歴

1971年 東京藝術大学大学院美術研究科建築専攻修了
東京大学生産技術研究所 原研究室生
1973年 (株)山本理顕設計工場 設立
2007～11年 横浜国立大学大学院教授

1968 年に日大を卒業しました。学部時代は小林文次先
生の研究室に所属していました。歴史研です。当時、近
江先生が助教授で片桐先生が助手でした。建築史研究会
という学生サークルに所属していて、3 年生のときはそ
の部長をしました。かなりの歴史オタクだったと思いま
すね。といってもそれまでの建築史研究会の定番だった
社寺仏閣民家ではなくてラスキンそしてモリスのアーツ・
アンド・クラフト運動からコルビジエ、ミース、ヨーロッ
パの近代建築黎明期がぼくの興味の中心で卒業論文も近
代建築黎明期の「装飾論」でした。歴史研究は設計活動
と一緒にぼくの方のキャラクターだと思っています。
だから、今回も近現代史の授業をしたいとお願いしまし
た。19 世紀の終わりから第一次世界大戦期を挟んで 20
世紀初頭の社会的状況と一緒に考えたいと思います。大
学院生たちと一緒に思考し、そして一緒に作業ができる
ような授業の形式を考えています。 (やまもとりけん)

石鍋雄一郎 先生
(助手)



略歴

2000年 日本大学理工学部建築学科卒業
2002年 日本大学大学院理工学研究科建築学専攻博士前期課程修了 (半貴研究室)
2011年 日本大学大学院理工学研究科建築学専攻博士後期課程修了 (半貴研究室)
2002～11年 (株)構造ソフト

今春より、建築学科の助手を務めさせていただくことになりました石鍋雄一郎です。博士前期課程修了後の9年間は、パソコン用構造計算ソフトの開発を仕事としていました。ちょっと変わった部類の経歴といえるかもしれません。在勤中には、社会的にも大問題になった“耐震強度偽装事件”が起き、ソフトメーカーは騒動のまっただ中にありました。建築構造技術がいかに大きな社会的責任を担っているものであるかを、あらためて実感させられる事件でした。責任が大きい分、やりがいも大きい分野であるといえます。志高い学生の皆さんの力添えをしたいと思います。

名前は堅いですが、性格は堅くありませんので気軽に声がけください。よろしくお願いいたします。

(いしなべゆういちろう)

西脇 梓 先生
(助手・設計講師室)



略歴

2007年 日本大学大学院理工学研究科建築学専攻博士前期課程修了 (高宮研究室)
2007～08年 (株)オフィス設計
2009～11年 川島鈴鹿建築計画

この春より、建築設計の授業で助手をさせていただくことになりました西脇梓です。私は、本大学院高宮研究室を修了後、オフィスの内装や、設計事務所で住宅の設計をしておりました。大学にあらためて籍を置くことになり、学生の頃を振り返ってみると、エネルギーに溢れた先生方やオーラのある先生方に圧倒されながらも、建築家に憧れを抱き、先生の言葉の意図はこうではないかと、一生懸命設計に取り組んでいたことを思い出します。また、友人や先輩に恵まれ、今でも刺激を受けることのできる素晴らしい人との出会いがありました。

今度は、私が環境を作る側になります。まだまだ未熟な私ではありますが、今までの経験を生かしながら、皆さんのお役に立てればと思います。

よろしくお願いいたします。 (にしわきあずさ)

廣石秀造 先生
(助手)



略歴

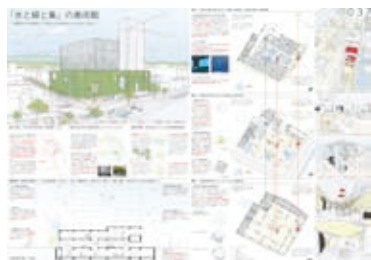
2005年 日本大学理工学部建築学科卒業
2007年 日本大学大学院理工学研究科建築学専攻博士前期課程修了 (斎藤・岡田研究室)
2007～11年 (株)構造計画 プラス・ワン

この春より、助手として理工学部建築学科に籍を置くことになりました。私は、本大学院の斎藤先生・岡田先生の研究室を修了後、この春まで構造設計事務所に勤めておりました。仕事で大小さまざまな物件を担当している傍ら、たびたび大学に顔を出しては面白そうな研究の話聞いていましたので、本学で働けること本当に楽しみです。

私が今まで学んできたことや体験したことで、学生の皆さんが興味のあることに対して少しでも手助けができれば光栄です。また先生方や皆さんとかかわっていく中で、自分自身も成長していきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。 (ひろいししゅうぞう)

■木村翔名誉教授と西村敏雄名誉教授が、平成22年秋の叙勲において、「瑞宝中級章」を受章した。

■今村雅樹教授が、「前橋市美術館（仮称）プロポーザルコンペ」の最終審査5名に選出され、佳作を受賞した。前橋市中心部の商業施設を美術館にコンバージョンする提案が求められ、130点の応募から選ばれた。「水と緑と集」の美術館」と題し、都市の環境再生装置としての美術館を提案したもの。



前橋美術館プロポーザル案

■蛭原弘貴君（横河研 M1）の「工業化住宅という HENTAI 住宅」が、「せんだいデザインリーグ 2010 卒業設計日本一決定戦 日本二」（主催：仙台建築都市学生会議、せんだいメディアテーク）を受賞した。これは全国から応募された学生の卒業設計を集め、公開審査によって日本一を決めるもので、530点の応募から2等選ばれた。また、南雅博氏（今村研 '10 年度卒業）の「実の線／虚の面」が、「同 特別賞」を受賞した。

■佐藤慎也准教授と古澤大輔非常勤講師が共同主宰するメジロスタジオの作品「3331 Arts Chiyoda」が新建築2月号に掲載された。構造設計を岡田章教授、宮里直也助教、ランドスケープデザイン監修を山崎誠子助教が担当（詳細は2010年7月号）。

■横内憲久教授は、1月に「進化する

教室ぶろむなード

ウォーターフロントのまちづくり」（主催：清水港振興グループ）において講演を行った。また、2月に「資産価値を高める緑の景観シンポジウム」（主催：千葉県流山市）においてコーディネータを務め、基調講演を行った。

■2010年12月18日に小川広次非常勤講師（'81年度卒業）が逝去された。謹んでご冥福をお祈りいたします。

■平成22年度の卒業式が3月25日に挙行された。卒業生・修了生は、建築学科348名（9月卒業10名含む）、大学院建築学専攻博士前期課程67名、同後期課程2名、同不動産科学専攻博士前期課程9名、同後期課程1名、短大建設学科50名（9月卒業2名含む）であった。

■半貫敏夫教授、新井佑一郎助手、岩崎陽子助手、福澤亜希子助手が3月31日をもって退職された。長い間ありがとうございました。

■4月1日付の人事で、大塚文和短大助教が海洋建築工学科に異動された。

■4月1日付の人事で、佐藤光彦准教授、中田善久准教授、古橋剛准教授が教授に、佐藤慎也助教、山田雅一助教が准教授に昇格された。

■4月1日付で新しく建築学科のメンバーになったのは、金田勝徳特任教授、山本理顕特任教授、石鍋雄一郎助手、王岩助手、西脇裕助手、廣石秀造助手である。

■4月1日付で新しく短大建設学科のメンバーになったのは、佐藤秀人准教授である。

■建築学科、大学院建築学専攻の非常勤講師の新旧交代は以下の通り（敬称略）。〈新任〉

井手孝太郎（建築設計Ⅱ、Ⅲ）

大野 博史（デザイン基礎、建築設計Ⅰ、デザインワークショップⅠ）

北岡 伸一（建築設計Ⅰ、Ⅳ）

酒井 章（建築構造設計演習Ⅱ）

佐藤 文（建築設計Ⅲ、Ⅳ）

鍋島 千恵（デザイン基礎、建築設計Ⅲ）

野島 秀仁（建築設計Ⅰ、Ⅱ）

吉田 明弘（デザイン基礎、建築設計Ⅰ）

若松 均（建築設計Ⅱ、Ⅲ）

〈退任〉

五十田 博（建築構法Ⅱ）

小平 恵一（建築設計Ⅱ、Ⅲ、設計演習Ⅰ）

千田 光（建築構造設計演習、鋼構造）

田井 勝馬（建築設計Ⅲ、Ⅳ、設計演習Ⅰ）

田口 知子（建築設計Ⅱ、Ⅴ）

前田 紀貞（建築設計Ⅱ、Ⅴ）

安原 幹（建築設計Ⅰ、Ⅳ）

■短大建設学科の非常勤講師の新旧交代は以下の通り（敬称略）。

〈新任〉

遠藤 誠（ベーシック建築デザイン、建築デザインⅠ）

光嶋 祐介（ベーシック建築デザイン、建築デザインⅠ）

荘司 和樹（ベーシック建築デザイン、建築デザインⅠ）

〈退任〉

内村 綾乃（建築デザインⅡ、建築デザインⅢ）

高橋 昌宏（ベーシック建築デザイン、建築デザインⅠ）

福西 浩之（ベーシック建築デザイン、建築デザインⅠ）

横村 隆子（ベーシック建築デザイン、建築デザインⅠ）

駿建目次

2011年4月号 Vol.39 No.1 通巻163号

表紙「日大理工学部船橋キャンパス新サークル棟」

設計：今村雅樹・山中新太郎

撮影：中川敦玲

NO ENGINEERING, NO ARCHITECTURE. 2

平成23年度 建築学科 履修要項 3

建築学科 専門科目使用教科書並びに参考書 12

平成23年度 短期大学部建設学科 履修要項 15

短期大学部建設学科

専門科目使用教科書並びに参考書 17

平成22年度 各賞受賞者一覧 19

平成22年度

博士論文 修士論文・設計 タイトル一覧 21

平成22年度 卒業研究・設計 タイトル一覧 24

平成22年度 短期大学部 卒業生一覧 33

研究室所在一覧 33

新任教員紹介 34

教室ぶろむなード 36